

0001 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：基礎	
痔の主な病態の組合せとして、適切なのはどれか。 ア 痔核・裂肛・痔瘻 イ 胃潰瘍・十二指腸潰瘍・逆流性食道炎 ウ 膀胱炎・尿道炎・腎盂腎炎 エ 湿疹・蕁麻疹・白癬	答え・解説 正答：ア ア：正しい。痔は肛門付近の血管のうっ血や負担などにより生じる疾患の総称で、主な病態として痔核、裂肛、痔瘻がある。 イ：誤り。いずれも上部消化管の疾患であり、痔の病態ではない。 ウ：誤り。いずれも泌尿器系の感染・炎症であり、痔の病態ではない。 エ：誤り。皮膚疾患の分類であり、痔の主な病態ではない。 総合：痔は肛門付近の血管のうっ血や負担などにより生じる疾患の総称で、主な病態として痔核、裂肛、痔瘻がある。
0002 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：基礎	
痔の発症や悪化を防ぐ生活上の工夫として、適切なのはどれか。 ア 排便を我慢し、便意が十分強くなるまで待つ。 イ 便秘や下痢を避け、排便時に長くいきまないようにする。 ウ 長時間座り続けて肛門部を圧迫する。 エ 刺激物やアルコールを多く摂る。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。排便を我慢すると便秘につながり、肛門への負担が増えることがある。 イ：正しい。痔の対処では、食物繊維や水分の摂取、便秘・下痢の回避、排便時に強くいきまないこと、長時間の座位を避けることなどが重要である。 ウ：誤り。長時間の座位は肛門周囲のうっ血を助長し得る。 エ：誤り。過度の刺激物や飲酒は痔症状の悪化要因となることがある。 総合：痔の対処では、食物繊維や水分の摂取、便秘・下痢の回避、排便時に強くいきまないこと、長時間の座位を避けることなどが重要である。

0003 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：基礎	
坐剤や注入軟膏の痔疾用薬について、適切なのはどれか。 ア 局所用なので、どの成分も循環血流中には入らない。 イ 外用であれば内服薬との相互作用は一切考えなくてよい。 ウ 直腸粘膜から成分の一部が吸収され、全身的な影響を生じることがある。 エ 直腸粘膜は薬物を全く吸収しない。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。坐剤・注入軟膏では直腸粘膜から吸収されやすい成分がある。 イ：誤り。吸収された成分により内服時と同様の影響や相互作用が生じることがある。 ウ：正しい。外用痔疾用薬でも坐剤や注入軟膏は直腸粘膜から一部成分が吸収され、全身性の副作用や相互作用に注意が必要な場合がある。 エ：誤り。直腸粘膜は薬物吸収が起こり得る部位である。 総合：外用痔疾用薬でも坐剤や注入軟膏は直腸粘膜から一部成分が吸収され、全身性の副作用や相互作用に注意が必要な場合がある。
0004 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：基礎	
痔に伴う痛み・かゆみを和らげる局所麻酔成分として用いられるものはどれか。 ア センノシド イ ウワウルシ ウ ネオスチグミンメチル硫酸塩 エ リドカイン	答え・解説 正答：エ ア：誤り。大腸刺激性の瀉下成分である。 イ：誤り。尿路消毒・利尿を期待して用いられる生薬である。 ウ：誤り。眼の調節機能改善を目的に用いられる成分である。 エ：正しい。リドカイン、アミノ安息香酸エチル、ジブカイン塩酸塩等は知覚神経の伝導を可逆的に遮断し、痔の痛み・かゆみを緩和する。 総合：リドカイン、アミノ安息香酸エチル、ジブカイン塩酸塩等は知覚神経の伝導を可逆的に遮断し、痔の痛み・かゆみを緩和する。

0005 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
痔疾用薬にジフェンヒドラミン塩酸塩等が配合される主な目的はどれか。 ア 痔に伴うかゆみを和らげる。 イ 便を軟らかくして排便を促す。 ウ 肛門部の創傷を直接修復する。 エ 血液を凝固させて出血を止める。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ジフェンヒドラミンやクロルフェニラミン等の抗ヒスタミン成分は、痔に伴うかゆみの緩和を目的として配合される。 イ：誤り。瀉下成分の役割であり、抗ヒスタミン成分の主目的ではない。 ウ：誤り。組織修復成分の役割である。 エ：誤り。止血成分の役割である。 総合：ジフェンヒドラミンやクロルフェニラミン等の抗ヒスタミン成分は、痔に伴うかゆみの緩和を目的として配合される。
0006 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
ヒドロコルチゾン酢酸エステルを含む痔用坐剤について、適切なのはどれか。 ア 炎症が慢性化するほど長期間連用する。 イ 含有量にかかわらず長期連用を避ける。 ウ 感染が疑われる患部ほど積極的に使用する。 エ 内服薬ではないため副作用の注意は不要である。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。ステロイド性抗炎症成分を含む坐剤・注入軟膏は長期連用を避ける必要がある。 イ：正しい。痔用のステロイド性抗炎症成分にはヒドロコルチゾン酢酸エステル、プレドニゾン酢酸エステル等があり、坐剤・注入軟膏では含有量によらず長期連用を避ける。 ウ：誤り。ステロイドは感染に対する抵抗力を弱める可能性がある。 エ：誤り。直腸から吸収され全身作用が生じる場合もある。 総合：痔用のステロイド性抗炎症成分にはヒドロコルチゾン酢酸エステル、プレドニゾン酢酸エステル等があり、坐剤・注入軟膏では含有量によらず長期連用を避ける。

0007 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
痔疾用薬に配合されるグリチルレチン酸の作用として、最も適切なのはどれか。 ア 強い局所麻酔作用を示す。 イ 大腸を直接刺激して排便を促す。 ウ 比較的穏やかな抗炎症作用を示す。 エ 尿中で抗菌作用を示して尿路を消毒する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。局所麻酔成分とは作用が異なる。 イ：誤り。刺激性瀉下成分ではない。 ウ：正しい。グリチルレチン酸はグリチルリチン酸が分解されてできる成分で、比較的穏やかな抗炎症作用を期待して用いられる。 エ：誤り。これはウワウルシの説明である。 総合：グリチルレチン酸はグリチルリチン酸が分解されてできる成分で、比較的穏やかな抗炎症作用を期待して用いられる。
0008 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
痔による肛門部の創傷の治癒を促す目的で配合される成分はどれか。 ア ブソイドエフェドリン塩酸塩 イ クロルフェニラミンマレイン酸塩 ウ ウルソデオキシコール酸 エ アラントイン	答え・解説 正答：エ ア：誤り。鼻粘膜血管収縮等を目的とするアドレナリン作動成分である。 イ：誤り。抗ヒスタミン成分である。 ウ：誤り。消化を助ける目的で胃腸薬に用いられる成分である。 エ：正しい。アラントインやアルクロキサは、肛門部の創傷の治癒を促す組織修復成分として用いられる。 総合：アラントインやアルクロキサは、肛門部の創傷の治癒を促す組織修復成分として用いられる。

0009 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
メチルエフェドリン塩酸塩を含む痔用坐剤を高血圧治療中の人が使用しようとしている。適切な対応はどれか。 ア 交感神経刺激により血圧上昇等を招くおそれがあるため、使用前に医師・薬剤師へ相談する。 イ 局所用なので高血圧への影響はないと説明する。 ウ 血圧を下げる成分なので積極的に勧める。 エ 高齢者では副作用が起こりにくいので確認不要である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。アドレナリン作動成分は止血目的で配合されるが、全身吸収により心悸亢進、血圧上昇、血糖値上昇等を起こし得る。 イ：誤り。直腸から吸収され全身作用を生じることがある。 ウ：誤り。アドレナリン作動成分は血管収縮等を起こし、血圧上昇を招くことがある。 エ：誤り。高齢者では基礎疾患が多く、慎重な使用が必要である。 総合：アドレナリン作動成分は止血目的で配合されるが、全身吸収により心悸亢進、血圧上昇、血糖値上昇等を起こし得る。
0010 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：標準	
タンニン酸や酸化亜鉛が痔疾用薬に用いられる理由として適切なのはどれか。 ア 肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑えるため。 イ 粘膜表面に不溶性の膜を形成し、粘膜を保護して止血を助ける。 ウ 交感神経を刺激して鼻粘膜血管を収縮させるため。 エ 角膜の乾燥を防ぐため。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。抗アレルギー成分の作用である。 イ：正しい。タンニン酸、酸化亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム等は、粘膜表面に保護膜を形成する収斂保護止血成分として用いられる。 ウ：誤り。鼻炎用のアドレナリン作動成分の説明である。 エ：誤り。眼科用の保湿成分の目的である。 総合：タンニン酸、酸化亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム等は、粘膜表面に保護膜を形成する収斂保護止血成分として用いられる。

0011 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：応用	
便秘傾向を伴う痔核・裂肛に用いられる漢方処方「乙字湯」の適応と配合生薬について、正しい説明はどれか。 ア 体力が著しく低下し下痢しやすい人に最も適する。 イ 排尿困難・夜間尿だけを対象とする泌尿器用漢方である。 ウ 体力中等度以上で便が硬く便秘傾向のある人の痔核・裂肛などに用いられ、通常ダイオウを含む。 エ 女性ホルモンを主成分とする製剤である。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。虚弱で胃腸が弱く下痢しやすい人には不向きとされる。 イ：誤り。乙字湯は主に痔や便秘等に用いられる。 ウ：正しい。乙字湯は便秘傾向を伴う痔核、裂肛、軽度の脱肛等に用いられ、通常ダイオウを含むため瀉下作用や使用者の体質に注意する。 エ：誤り。漢方処方であり女性ホルモン製剤ではない。 総合：乙字湯は便秘傾向を伴う痔核、裂肛、軽度の脱肛等に用いられ、通常ダイオウを含むため瀉下作用や使用者の体質に注意する。
0012 [排泄・婦人薬] > [痔疾用薬] 難易度：応用	
痔疾用薬を一定期間使用しても排便時の出血と痛みが続く人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 症状が続くほど同じ薬を無期限に連用するよう勧める。 イ 出血は痔でしか起こらないため受診不要と説明する。 ウ 出血量に関係なく複数の痔疾用薬を同時に使うよう勧める。 エ 肛門癌など他の疾患の可能性もあるため、医療機関の受診を勧める。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。改善しない症状では疾患の見直しが必要である。 イ：誤り。肛門癌などでも出血や痛みが現れることがある。 ウ：誤り。成分重複や副作用の可能性がある、原因評価が優先される。 エ：正しい。痔の症状が長引く場合や出血・痛みが続く場合は、痔瘻や肛門癌など重大な疾患の可能性も考え、受診を勧める。 総合：痔の症状が長引く場合や出血・痛みが続く場合は、痔瘻や肛門癌など重大な疾患の可能性も考え、受診を勧める。

0013 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：基礎	
ウワウルシについて、適切なのはどれか。 ア 利尿作用のほか、尿中に排出される代謝物による抗菌作用を期待して尿路の殺菌消毒に用いられる。 イ 主に胃酸を中和する生薬である。 ウ 皮膚糸状菌を直接殺す外用抗真菌薬である。 エ 中枢神経を刺激して眠気を防ぐ生薬である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ウワウルシはクマコケモモの葉を基原とし、利尿作用に加えて代謝物の抗菌作用による尿路消毒を期待して用いられる。 イ：誤り。胃酸中和を目的とする生薬ではない。 ウ：誤り。外用抗真菌薬ではない。 エ：誤り。眠気防止を目的とするものではない。 総合：ウワウルシはクマコケモモの葉を基原とし、利尿作用に加えて代謝物の抗菌作用による尿路消毒を期待して用いられる。
0014 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：基礎	
利尿作用を期待して用いられる生薬の組合せとして適切なのはどれか。 ア センソ・ゴオウ・ジャコウ イ カゴソウ・キササゲ・モクツウ ウ センナ・ダイオウ・センノシド エ サフラン・コウブシ・トウキ	答え・解説 正答：イ ア：誤り。主に強心薬に用いられる生薬である。 イ：正しい。その他の泌尿器用薬では、カゴソウ、キササゲ、サンキライ、ソウハクヒ、モクツウ、ブクリョウ等が利尿目的で用いられる。 ウ：誤り。主に瀉下作用に関連する。 エ：誤り。主に婦人薬で用いられる生薬である。 総合：その他の泌尿器用薬では、カゴソウ、キササゲ、サンキライ、ソウハクヒ、モクツウ、ブクリョウ等が利尿目的で用いられる。

0015 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：標準	
日本薬局方収載生薬の用途について、適切なのはどれか。 ア カゴソウは専ら歯痛に、キササゲは眼精疲労に用いられる。 イ キササゲは下痢止め、サンキライは胃酸過多に用いられる。 ウ カゴソウは残尿感や排尿時の不快感に、キササゲ・サンキライ・ソウハクヒは尿量減少に煎薬として用いられる。 エ いずれも強心薬としてのみ用いられる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。泌尿器用生薬の用途とは異なる。 イ：誤り。手引きでは尿量減少等への用途が示されている。 ウ：正しい。カゴソウは残尿感・排尿時不快感に、キササゲ、サンキライ、ソウハクヒは尿量減少に用いられる生薬として整理されている。 エ：誤り。主に利尿等を期待して用いられる。 総合：カゴソウは残尿感・排尿時不快感に、キササゲ、サンキライ、ソウハクヒは尿量減少に用いられる生薬として整理されている。
0016 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：標準	
モクツウの基原として適切なのはどれか。 ア クマコケモモの葉 イ マグワの根皮 ウ ウツボグサの花穂 エ アケビ又はミツバアケビの蔓性の茎	答え・解説 正答：エ ア：誤り。ウワウルシの基原である。 イ：誤り。ソウハクヒの基原である。 ウ：誤り。カゴソウの基原である。 エ：正しい。モクツウはアケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性の茎を基原とする生薬で、利尿作用を期待して用いられる。 総合：モクツウはアケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性の茎を基原とする生薬で、利尿作用を期待して用いられる。

0017 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：標準	
牛車腎気丸の適応として、最も適切なのはどれか。 ア 体力中等度以下で疲れやすく四肢が冷えやすく、排尿困難・頻尿・むくみなどがある場合 イ 体力充実で激しい便秘と顔面紅潮だけがある場合 ウ 急性の高熱と激しい咽頭痛がある場合 エ 化膿した皮膚病変だけがある場合	答え・解説 正答：ア ア：正しい。牛車腎気丸は、体力中等度以下で冷え、尿量減少、むくみ等を伴う排尿困難、頻尿などに用いられる。 イ：誤り。牛車腎気丸の典型的な適応像とは異なる。 ウ：誤り。泌尿器症状を中心とする処方であり、急性高熱の自己治療には適さない。 エ：誤り。外用薬の適応領域であり、牛車腎気丸の対象ではない。 総合：牛車腎気丸は、体力中等度以下で冷え、尿量減少、むくみ等を伴う排尿困難、頻尿などに用いられる。
0018 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：標準	
冷えを伴う排尿困難・残尿感・夜間尿などに用いられる八味地黄丸について、正しい説明はどれか。 ア 胃腸が弱く下痢しやすい人ほど適する。 イ 体力中等度以下で四肢が冷えやすく、排尿困難・残尿感・夜間尿・頻尿などに用いられる。 ウ のぼせが強く赤ら顔で体力が充実している人ほど適する。 エ 痔出血だけを対象とする処方である。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。胃腸が弱く下痢しやすい人では副作用が現れやすく、使用を避ける必要がある。 イ：正しい。八味地黄丸は冷えや排尿症状を伴う体力中等度以下の人に用いられるが、胃腸虚弱・下痢傾向や、のぼせが強い実証の人には不向きである。 ウ：誤り。そのような人ではのぼせや動悸等が現れやすく不向きとされる。 エ：誤り。痔出血を主目的とする処方ではない。 総合：八味地黄丸は冷えや排尿症状を伴う体力中等度以下の人に用いられるが、胃腸虚弱・下痢傾向や、のぼせが強い実証の人には不向きである。

0019 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：応用	
手足のほてりや口渇を伴う排尿症状に用いられる六味丸の適応として、正しいものはどれか。 ア 四肢の冷えが強い人だけに用いる処方である。 イ 感染性膀胱炎を直接殺菌する抗菌薬である。 ウ 体力中等度以下で、尿量減少又は多尿に加えて手足のほてりや口渇がある人の排尿困難・残尿感・頻尿等に用いられる。 エ 女性ホルモンを補充する婦人薬である。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。六味丸は手足のほてりや口渇を伴う適応が示されている。 イ：誤り。漢方処方であり、細菌感染を直接治療する抗菌薬ではない。 ウ：正しい。六味丸は排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ等に用いられ、手足のほてりや口渇を伴う体力中等度以下の人が適応像となる。 エ：誤り。女性ホルモン製剤ではない。 総合：六味丸は排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ等に用いられ、手足のほてりや口渇を伴う体力中等度以下の人が適応像となる。
0020 [排泄・婦人薬] > [その他の泌尿器用薬] 難易度：応用	
残尿感と尿量減少が続く人が一般用泌尿器用薬を希望している。最も適切な対応はどれか。 ア 残尿感は必ず一時的な体調不良なので受診は不要と説明する。 イ 尿が出にくいほど利尿薬を重ねて使用するよう勧める。 ウ 前立腺肥大は一般用泌尿器用薬だけで治療できると説明する。 エ 膀胱炎や前立腺肥大などの疾患でも起こるため、症状が続く場合は受診を勧める。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。泌尿器疾患の自覚症状として現れることがある。 イ：誤り。原因疾患がある場合、自己判断の重複使用は不適切である。 ウ：誤り。前立腺肥大による症状では医療機関での評価が必要である。 エ：正しい。残尿感・尿量減少は膀胱炎や前立腺肥大などでもみられる。持続する場合は一般用医薬品のみで対処せず受診を勧める。 総合：残尿感・尿量減少は膀胱炎や前立腺肥大などでもみられる。持続する場合は一般用医薬品のみで対処せず受診を勧める。

0021 [排泄・婦人薬]> [婦人薬] 難易度：基礎	
月経周期について、手引きの説明として適切なのはどれか。 ア 個人差があり、約21日～40日の幅がある。 イ すべての女性で必ず28日ちょうどである。 ウ 妊娠中も通常どおり毎月起こる。 エ 卵巣や下垂体のホルモンとは無関係である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。月経周期には個人差があり、約21～40日の範囲がある。複数のホルモンの相互作用で調節される。 イ：誤り。月経周期には個人差がある。 ウ：誤り。妊娠期間中は通常の月経は起こらない。 エ：誤り。月経は視床下部・下垂体・卵巣等のホルモン相互作用により調節される。 総合：月経周期には個人差があり、約21～40日の範囲がある。複数のホルモンの相互作用で調節される。
0022 [排泄・婦人薬]> [婦人薬] 難易度：基礎	
一般用婦人薬の対象となる症状として適切なのはどれか。 ア 骨折による激しい疼痛だけ イ 月経不順、月経痛、更年期に伴うのぼせ・冷え・頭痛など ウ 細菌性肺炎による高熱 エ 急性虫垂炎による右下腹部痛	答え・解説 正答：イ ア：誤り。婦人薬の適応ではない。 イ：正しい。婦人薬は月経や更年期に伴う諸症状の緩和を目的とし、月経不順、月経痛、冷え、のぼせ等に用いられる。 ウ：誤り。抗菌治療等が必要な疾患であり婦人薬の対象ではない。 エ：誤り。緊急性のある疾患であり婦人薬で自己対処すべきでない。 総合：婦人薬は月経や更年期に伴う諸症状の緩和を目的とし、月経不順、月経痛、冷え、のぼせ等に用いられる。

0023 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：基礎	
婦人薬に用いられる女性ホルモン成分として適切なのはどれか。 ア ブソイドエフェドリン塩酸塩 イ スルファメトキサゾール ウ エチニルエストラジオール エ テルピナフィン塩酸塩	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。アドレナリン作動成分である。 イ：誤り。抗菌性点眼薬等に用いられるサルファ剤である。 ウ：正しい。婦人薬にはエチニルエストラジオール、エストラジオール等の女性ホルモン成分が配合される場合がある。 エ：誤り。外用抗真菌成分である。 総合：婦人薬にはエチニルエストラジオール、エストラジオール等の女性ホルモン成分が配合される場合がある。
0024 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：標準	
女性ホルモン成分を含む一般用婦人薬について、適切なのはどれか。 ア 妊娠中ほど積極的に使用して胎児の発育を促す。 イ 母乳へ移行しないので授乳中の注意は不要である。 ウ 外用製品であれば全身吸収は起こらない。 エ 妊婦・妊娠していると思われる女性では使用を避け、授乳中も使用を避けるべきである。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。妊娠中の女性ホルモン成分摂取と胎児先天性異常の報告があり、使用を避ける。 イ：誤り。吸収された成分の一部が乳汁中へ移行する可能性がある。 ウ：誤り。粘膜等から吸収され循環血液中へ移行することがある。 エ：正しい。女性ホルモン成分は妊娠中の使用を避け、授乳中も乳児への影響を考慮して使用を避ける必要がある。 総合：女性ホルモン成分は妊娠中の使用を避け、授乳中も乳児への影響を考慮して使用を避ける必要がある。

0025 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：標準	
女性ホルモン成分を含む婦人薬を長期にわたり使用する場合の注意として適切なのはどれか。 ア 血栓症などのリスクがあるため、継続使用では医療機関の受診を促す。 イ 長期使用するほど血栓症のリスクは低下する。 ウ 乳癌や脳卒中のリスクとは無関係である。 エ 効果がないほど用量を自己判断で増やす。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。女性ホルモン成分は長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、乳癌や脳卒中等のリスクにも注意して継続時は受診を促す。 イ：誤り。長期連用で血栓症を生じるおそれがある。 ウ：誤り。長期連用でそれらの発生確率が高まる可能性が示されている。 エ：誤り。用量超過は副作用リスクを高めるため不適切である。 総合：女性ホルモン成分は長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、乳癌や脳卒中等のリスクにも注意して継続時は受診を促す。
0026 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：標準	
婦人薬に用いられるサフランやコウブシについて、適切なのはどれか。 ア 鼻粘膜血管を収縮させる目的で用いる。 イ 鎮静・鎮痛に加え、滞っている月経を促す作用を期待して用いられる。 ウ 白癬菌の細胞膜合成を阻害する。 エ 眼の毛様体でアセチルコリン作用を高める。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。鼻炎用アドレナリン作動成分とは異なる。 イ：正しい。サフラン、コウブシは婦人薬で鎮静・鎮痛や月経を促す作用を期待して用いられる。 ウ：誤り。抗真菌薬ではない。 エ：誤り。眼科用調節機能改善成分ではない。 総合：サフラン、コウブシは婦人薬で鎮静・鎮痛や月経を促す作用を期待して用いられる。

0027 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：標準	
センキュウ、トウキ、ジオウに共通して期待される作用として適切なのはどれか。 ア 消化管内の寄生虫を駆除する。 イ 鼻粘膜を直接収縮させる。 ウ 血行を改善し、血色不良や冷えを緩和する。 エ 角膜の乾燥を防ぐ。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。駆虫薬の作用である。 イ：誤り。アドレナリン作動成分の作用である。 ウ：正しい。センキュウ、トウキ、ジオウは血行改善により血色不良や冷えの症状を緩和し、強壮、鎮静、鎮痛等も期待して用いられる。 エ：誤り。眼科用保湿成分の作用である。 総合：センキュウ、トウキ、ジオウは血行改善により血色不良や冷えの症状を緩和し、強壮、鎮静、鎮痛等も期待して用いられる。
0028 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：標準	
婦人薬を使用している人が、かぜ薬や胃腸薬も併用しようとしている。販売時の確認として適切なのはどれか。 ア 薬効群が異なれば成分が重複することはない。 イ 婦人薬は他の一般用医薬品と相互作用しない。 ウ 婦人薬の成分表示は確認する必要がある。 エ カンゾウやダイオウなど共通成分の重複がないか確認する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。異なる薬効群でも同じ生薬成分が含まれることがある。 イ：誤り。成分重複により作用・副作用が強くなることもある。 ウ：誤り。配合成分を確認することが相互作用回避に重要である。 エ：正しい。婦人薬にはカンゾウ、ダイオウ、鎮静生薬等が含まれる場合があり、他の薬効群との成分重複に注意する。 総合：婦人薬にはカンゾウ、ダイオウ、鎮静生薬等が含まれる場合があり、他の薬効群との成分重複に注意する。

0029 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：応用	
月経以外の不規則な出血がある人が婦人薬を求めている。最も適切な対応はどれか。 ア 自己判断で婦人薬だけを使用せず、速やかに医療機関の受診を勧める。 イ 更年期ではよくあるため受診は不要と説明する。 ウ 出血が止まるまで女性ホルモン成分を増量する。 エ 出血量に関係なく1か月は様子を見る。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。月経以外の不正出血では、重大な疾患が背景にある可能性もあるため、一般用医薬品で対処せず専門医の診療を受ける。 イ：誤り。不正出血は婦人科疾患等の可能性があり評価が必要である。 ウ：誤り。自己判断での増量は不適切で、原因診断が優先される。 エ：誤り。不正出血では速やかな受診が推奨される。 総合：月経以外の不正出血では、重大な疾患が背景にある可能性もあるため、一般用医薬品で対処せず専門医の診療を受ける。
0030 [排泄・婦人薬] > [婦人薬] 難易度：応用	
更年期と思われる動悸・息切れ・のぼせが続く人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア すべて更年期障害だけで説明できるので長期の自己治療を勧める。 イ 心疾患、高血圧、甲状腺疾患などが背景にある可能性も考え、症状が続く場合は受診を勧める。 ウ 治療中の病気があっても婦人薬の使用は医師への相談不要である。 エ 1か月使用して効果がなくても漫然と継続する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。同様の症状は他の疾患でも起こり得る。 イ：正しい。婦人薬は比較的穏やかに作用するが、症状の背景に心疾患、甲状腺疾患、うつ病等が隠れることがあり、継続症状では受診が必要である。 ウ：誤り。治療中の疾患や処方薬との関係を確認する必要がある。 エ：誤り。効果がない場合は使用を中止し、専門家への相談・受診を考える。 総合：婦人薬は比較的穏やかに作用するが、症状の背景に心疾患、甲状腺疾患、うつ病等が隠れることがあり、継続症状では受診が必要である。

0031 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：基礎	
内服アレルギー用薬に配合される抗ヒスタミン成分の主な作用として、適切なのはどれか。 ア 肥満細胞からヒスタミンが放出される前に、その産生を完全に止める。 イ 鼻粘膜の細菌を直接殺菌する。 ウ ヒスタミンが受容体に結合するのを妨げ、くしゃみ・鼻汁・じんましんなどの症状を和らげる。 エ 気道粘液を分解して痰を排出する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗ヒスタミン成分の主作用は、放出済みヒスタミンの受容体への結合を妨げることである。 イ：誤り。抗ヒスタミン成分は抗菌薬ではない。 ウ：正しい。クロルフェニラミン、ジフェンヒドラミン等の抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの受容体への結合を妨げてアレルギー症状を緩和する。 エ：誤り。これは去痰成分に関連する作用である。 総合：クロルフェニラミン、ジフェンヒドラミン等の抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの受容体への結合を妨げてアレルギー症状を緩和する。
0032 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：基礎	
眠気を起こすことがある抗ヒスタミン成分を服用した後の行動について、正しい注意事項はどれか。 ア 服用後は覚醒度が高まるため、長距離運転に適している。 イ 眠気が出ても薬効とは無関係なので運転制限は不要である。 ウ 眠気を防ぐためアルコールと一緒に服用する。 エ 眠気を生じることがあるため、服用後は自動車の運転等を避ける。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。抗ヒスタミン成分では眠気が起こり得る。 イ：誤り。眠気は事故につながるため運転等を避ける必要がある。 ウ：誤り。アルコールにより鎮静作用が強まるおそれがある。 エ：正しい。抗ヒスタミン成分は中枢神経抑制により眠気を生じることがあり、服用後の運転・機械操作を避ける。 総合：抗ヒスタミン成分は中枢神経抑制により眠気を生じることがあり、服用後の運転・機械操作を避ける。

0033 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：基礎	
抗ヒスタミン成分でみられることがある抗コリン性の副作用として、適切なのはどれか。 ア 口渇・便秘・排尿困難・目のかすみ イ 流涙・下痢・頻尿・縮瞳 ウ 咳・痰・発熱・悪寒 エ 歯肉出血・黒色便・血尿	答え・解説 正答：ア ア：正しい。抗ヒスタミン成分の一部は抗コリン作用も示し、口渇、便秘、排尿困難、目のかすみ等を起こすことがある。 イ：誤り。抗コリン作用とは反対方向の症状が含まれる。 ウ：誤り。感染症などでみられる症状であり、抗コリン性副作用の組合せではない。 エ：誤り。抗コリン作用の代表的症状ではない。 総合：抗ヒスタミン成分の一部は抗コリン作用も示し、口渇、便秘、排尿困難、目のかすみ等を起こすことがある。
0034 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：基礎	
前立腺肥大による排尿困難がある人が、抗ヒスタミン成分を含む鼻炎用内服薬を希望している。適切な対応はどれか。 ア 抗ヒスタミン成分は排尿に影響しないので、そのまま使用を勧める。 イ 抗コリン作用で排尿困難が悪化するおそれがあるため、使用前に医師・薬剤師等へ相談するよう勧める。 ウ 前立腺肥大があるほど抗ヒスタミン成分の効果が高まる。 エ 排尿困難が強い場合は用量を増やす。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。抗コリン作用により排尿困難が悪化することがある。 イ：正しい。抗ヒスタミン成分では抗コリン作用によって排尿困難や眼圧上昇を招くことがあるため、前立腺肥大や緑内障等がある人では事前相談が必要である。 ウ：誤り。そのような適応上の利点はない。 エ：誤り。副作用悪化のおそれがあり不適切である。 総合：抗ヒスタミン成分では抗コリン作用によって排尿困難や眼圧上昇を招くことがあるため、前立腺肥大や緑内障等がある人では事前相談が必要である。

0035 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
授乳中の女性がジフェンヒドラミン塩酸塩を含む内服アレルギー用薬を使用しようとしている。適切な説明はどれか。 ア 母乳中に移行しないため、授乳への配慮は不要である。 イ 乳児の睡眠を整える目的で授乳直前に服用する。 ウ 乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、使用を避けるか、使用する場合は授乳を避ける。 エ 授乳中は成人用量の2倍まで安全に使用できる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。ジフェンヒドラミンは乳汁中へ移行し、乳児への影響が懸念される。 イ：誤り。乳児への鎮静作用を期待して使用するものではない。 ウ：正しい。ジフェンヒドラミンは乳汁中へ移行し、乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、授乳中の使用には明確な注意が必要である。 エ：誤り。用量を増やす根拠はなく、副作用リスクが増す。 総合：ジフェンヒドラミンは乳汁中へ移行し、乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、授乳中の使用には明確な注意が必要である。
0036 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
抗ヒスタミン成分を含む内服アレルギー用薬と飲酒の関係として、適切なのはどれか。 ア アルコールは抗ヒスタミン作用を完全に打ち消すので安全である。 イ 飲酒すると排尿困難などの副作用が必ず消失する。 ウ 眠気が出る薬ほど飲酒と併用してよい。 エ アルコールにより眠気などの中枢神経抑制作用が強まるおそれがあるため、服用中の飲酒を避ける。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。中枢神経抑制が相加的に強まる可能性がある。 イ：誤り。副作用を軽減する根拠はない。 ウ：誤り。眠気や判断力低下が強まるおそれがあり危険である。 エ：正しい。抗ヒスタミン成分は眠気を起こし得るため、アルコールとの併用で中枢神経抑制が強まらないよう飲酒を避ける。 総合：抗ヒスタミン成分は眠気を起こし得るため、アルコールとの併用で中枢神経抑制が強まらないよう飲酒を避ける。

0037 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
内服アレルギー用薬にグリチルリチン酸二カリウム等が配合される目的として、適切なものはどれか。 ア アレルギー反応に伴う炎症を和らげる。 イ 鼻粘膜の血管を直接収縮させる。 ウ ヒスタミン受容体を遮断する。 エ 眠気を防ぐため中枢神経を刺激する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。グリチルリチン酸二カリウム等は、鼻粘膜や皮膚などのアレルギー性炎症を鎮める補助成分として用いられる。 イ：誤り。これはアドレナリン作動成分の作用である。 ウ：誤り。抗ヒスタミン成分の作用である。 エ：誤り。抗炎症成分の目的ではない。 総合：グリチルリチン酸二カリウム等は、鼻粘膜や皮膚などのアレルギー性炎症を鎮める補助成分として用いられる。

0038 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
ブソイドエフェドリン塩酸塩が鼻炎用内服薬に配合される主な理由はどれか。 ア ヒスタミンを化学的に分解する。 イ 交感神経を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させ、鼻づまりを軽減する。 ウ 鼻汁を固めて物理的に排出を止める。 エ 鼻粘膜の細菌を直接殺菌する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。ヒスタミン分解が主作用ではない。 イ：正しい。ブソイドエフェドリンはアドレナリン作動成分で、鼻粘膜血管を収縮させて充血・腫脹を軽減し、鼻づまりを改善する。 ウ：誤り。そのような作用機序ではない。 エ：誤り。抗菌成分ではない。 総合：ブソイドエフェドリンはアドレナリン作動成分で、鼻粘膜血管を収縮させて充血・腫脹を軽減し、鼻づまりを改善する。

0039 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
ブソイドエフェドリン塩酸塩を含む鼻炎用内服薬について、使用を避けるべき人として最も適切なのはどれか。 ア 軽い肩こりだけがある健康成人 イ 過去に虫歯治療を受けた人 ウ 心臓病、高血圧、甲状腺機能障害、糖尿病の診断を受けている人や、前立腺肥大による排尿困難がある人 エ 近視で眼鏡を使用している人	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。それだけではブソイドエフェドリンの代表的な使用回避条件ではない。 イ：誤り。虫歯治療歴は代表的禁忌ではない。 ウ：正しい。ブソイドエフェドリンは交感神経刺激作用により心拍数増加、血圧上昇、血糖値上昇、排尿困難等を悪化させるおそれがある。 エ：誤り。近視そのものは代表的禁忌ではない。 総合：ブソイドエフェドリンは交感神経刺激作用により心拍数増加、血圧上昇、血糖値上昇、排尿困難等を悪化させるおそれがある。
0040 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：標準	
ブソイドエフェドリン塩酸塩を含む鼻炎用内服薬と、モノアミン酸化酵素阻害作用をもつ薬剤との併用について、適切なのはどれか。 ア 互いの作用が完全に相殺されるため安全である。 イ 血圧を下げる相互作用だけが起こる。 ウ 鼻炎症状が強い場合は併用量を増やす。 エ 交感神経刺激作用が強まるおそれがあるため、併用を避ける必要がある。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。交感神経刺激作用が増強する可能性がある。 イ：誤り。むしろ血圧上昇などが問題となり得る。 ウ：誤り。相互作用リスクを高めるため不適切である。 エ：正しい。ブソイドエフェドリンはMAO阻害薬等との併用で交感神経刺激作用が増強し、血圧上昇等を起こすおそれがある。 総合：ブソイドエフェドリンはMAO阻害薬等との併用で交感神経刺激作用が増強し、血圧上昇等を起こすおそれがある。

0041 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：応用	
かぜ薬を服用中の人が、くしゃみと鼻水のため鼻炎用内服薬も購入しようとしている。最も適切な対応はどれか。 ア 抗ヒスタミン成分やアドレナリン作動成分などが重複していないか、両製品の成分を確認する。 イ 薬効分類が違うので成分重複は起こらないと説明する。 ウ 症状が強いほど重複使用した方が安全である。 エ 成分は確認せず、服用時間だけずらせばよい。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。かぜ薬、鎮咳去痰薬、乗物酔い防止薬、鼻炎用薬などには抗ヒスタミン成分や抗コリン成分等が重複することがあり、成分確認が重要である。 イ：誤り。かぜ薬と鼻炎薬には同じ抗ヒスタミン成分等が含まれることがある。 ウ：誤り。副作用や過量摂取のリスクが高まる。 エ：誤り。時間をずらしても同成分の重複が解消されない場合がある。 総合：かぜ薬、鎮咳去痰薬、乗物酔い防止薬、鼻炎用薬などには抗ヒスタミン成分や抗コリン成分等が重複することがあり、成分確認が重要である。
0042 [アレルギー・鼻・眼] > [内服アレルギー用薬] 難易度：応用	
内服アレルギー用薬を数日使用しても症状が改善せず、発熱や全身倦怠感も加わった人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 症状が強いほど複数の抗ヒスタミン薬を併用する。 イ 感染症などアレルギー以外の原因も考え、一般用医薬品の継続だけに頼らず受診を勧める。 ウ 発熱があってもすべて花粉症と判断する。 エ 改善がなくても数か月同じ薬を自己判断で続ける。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。成分重複により眠気や抗コリン性副作用が強まるおそれがある。 イ：正しい。アレルギー症状と似た症状は感染症等でも起こる。一般用医薬品で改善しない場合や全身症を伴う場合は受診判断が重要である。 ウ：誤り。発熱や全身症は感染症等の可能性もあり、鑑別が必要である。 エ：誤り。原因評価を遅らせるため不適切である。 総合：アレルギー症状と似た症状は感染症等でも起こる。一般用医薬品で改善しない場合や全身症を伴う場合は受診判断が重要である。

0043 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：基礎	
鼻炎について、適切なのはどれか。 ア 急性鼻炎は必ず細菌感染だけで起こる。 イ アレルギー性鼻炎はヒスタミンとは無関係である。 ウ 急性鼻炎はかぜなどに伴って起こることが多く、アレルギー性鼻炎は花粉やハウスダスト等への反応で起こる。 エ 副鼻腔炎では鼻づまりや膿性鼻汁は生じない。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。急性鼻炎はウイルス感染等に伴うことが多い。 イ：誤り。アレルギー反応でヒスタミン等が関与する。 ウ：正しい。鼻炎には急性鼻炎、アレルギー性鼻炎などがあり、原因や病態に応じて適切な対処が必要である。 エ：誤り。副鼻腔炎では鼻づまりや粘稠な鼻汁等がみられることがある。 総合：鼻炎には急性鼻炎、アレルギー性鼻炎などがあり、原因や病態に応じて適切な対処が必要である。
0044 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：基礎	
点鼻薬を使用する際の基本として、適切なのはどれか。 ア 容器先端を鼻粘膜に強く押し当てて使用する。 イ 家族間で同じ点鼻容器を共用する。 ウ 使用後は先端を洗浄せず鼻汁を残して保管する。 エ 使用前に鼻をかみ、容器の先端を鼻粘膜に触れさせないようにして噴霧する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。粘膜を傷つけたり、容器を汚染したりするおそれがある。 イ：誤り。感染防止のため、点鼻容器の共用は避ける。 ウ：誤り。清潔を保ち、汚染を防ぐ必要がある。 エ：正しい。点鼻薬は鼻をかんってから用い、容器の先端が鼻粘膜や鼻汁に触れないようにして衛生的に使用する。 総合：点鼻薬は鼻をかんしてから用い、容器の先端が鼻粘膜や鼻汁に触れないようにして衛生的に使用する。

0045 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：標準	
ナファゾリン塩酸塩などが点鼻薬に配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 鼻粘膜の血管を収縮させ、充血・腫脹を和らげて鼻づまりを改善する。 イ 鼻粘膜のヒスタミン受容体だけを遮断する。 ウ 鼻腔内の真菌を殺す。 エ 鼻粘膜の乾燥を促して鼻汁を固める。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ナファゾリン、テトラヒドロゾリン等のアドレナリン作動成分は鼻粘膜血管を収縮させ、鼻づまりを緩和する。 イ：誤り。ナファゾリンは主にアドレナリン作動による血管収縮作用を示す。 ウ：誤り。抗真菌作用を目的とする成分ではない。 エ：誤り。主目的は血管収縮による充血・腫脹の軽減である。 総合：ナファゾリン、テトラヒドロゾリン等のアドレナリン作動成分は鼻粘膜血管を収縮させ、鼻づまりを緩和する。
0046 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：標準	
血管収縮成分を含む点鼻薬を連日長期間使用することが不適切な主な理由はどれか。 ア 連用すると必ず抗菌作用が強くなりすぎるため イ 連用により鼻粘膜の血管が反応しにくくなり、かえって鼻づまりが悪化することがあるため ウ 長期使用すると鼻粘膜が永久に乾燥しなくなるため エ 連用で抗ヒスタミン作用が消失するため	答え・解説 正答：イ ア：誤り。血管収縮成分の主作用は抗菌ではない。 イ：正しい。アドレナリン作動成分を含む点鼻薬は、連用により血管が反応しにくくなり、反跳性の充血や鼻づまりを招くことがある。 ウ：誤り。そのような作用ではない。 エ：誤り。主な問題は反応性低下や二次的な鼻づまりである。 総合：アドレナリン作動成分を含む点鼻薬は、連用により血管が反応しにくくなり、反跳性の充血や鼻づまりを招くことがある。

0047 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：標準	
クロルフェニラミンマレイン酸塩を含む点鼻薬の主な目的はどれか。 ア 鼻粘膜の血管を直接強く収縮させることだけを目的とする。 イ 鼻腔内の細菌を殺菌する。 ウ ヒスタミンの作用を抑え、アレルギー性鼻炎のくしゃみ・鼻汁などを和らげる。 エ 鼻粘膜の角質を溶かす。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。クロルフェニラミンは抗ヒスタミン成分である。 イ：誤り。抗菌薬ではない。 ウ：正しい。点鼻薬にも抗ヒスタミン成分が用いられ、鼻粘膜でヒスタミン作用を抑えてアレルギー症状を緩和する。 エ：誤り。角質軟化成分ではない。 総合：点鼻薬にも抗ヒスタミン成分が用いられ、鼻粘膜でヒスタミン作用を抑えてアレルギー症状を緩和する。
0048 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：標準	
高血圧症で治療中の人が、アドレナリン作動成分を含む点鼻薬を希望している。適切な対応はどれか。 ア 点鼻薬は局所用なので血圧に影響する可能性はない。 イ 高血圧では血管収縮作用が治療に有利なので積極的に勧める。 ウ 内服薬との重複は一切確認しなくてよい。 エ 鼻粘膜から吸収され全身的な交感神経刺激作用を生じることがあるため、使用前に医師・薬剤師等へ相談を勧める。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。鼻粘膜から吸収され、全身作用が生じる場合がある。 イ：誤り。血圧上昇などを悪化させるおそれがある。 ウ：誤り。同様のアドレナリン作動成分が重複する可能性がある。 エ：正しい。点鼻用アドレナリン作動成分でも全身吸収により心拍数増加・血圧上昇等を起こす可能性があり、基礎疾患がある人では注意する。 総合：点鼻用アドレナリン作動成分でも全身吸収により心拍数増加・血圧上昇等を起こす可能性があり、基礎疾患がある人では注意する。

0049 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：応用	
点鼻薬を3日程度使用しても鼻づまりが改善せず、頬の痛みと粘稠な鼻汁もある人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 副鼻腔炎などの可能性を考え、一般用点鼻薬を続けるだけでなく受診を勧める。 イ 鼻づまりが続くほど血管収縮成分の使用回数を増やす。 ウ 頬の痛みは鼻疾患とは関係ないと説明する。 エ 改善するまで数週間、同じ点鼻薬だけで自己治療を続ける。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。点鼻薬を数日使用しても改善しない場合や、膿性鼻汁・顔面痛など副鼻腔炎を疑う症状がある場合は受診が適切である。 イ：誤り。連用で鼻づまりが悪化する場合がある。 ウ：誤り。副鼻腔炎では顔面部の痛み等が起こることがある。 エ：誤り。数日で改善しない場合は他の疾患を考慮する。 総合：点鼻薬を数日使用しても改善しない場合や、膿性鼻汁・顔面痛など副鼻腔炎を疑う症状がある場合は受診が適切である。
0050 [アレルギー・鼻・眼] > [鼻に用いる薬] 難易度：応用	
片側だけの鼻づまりが長く続き、鼻の奥にできものがあるように感じる人への対応として、適切なのはどれか。 ア アレルギー性鼻炎と決めつけ、点鼻血管収縮薬を長期連用する。 イ 鼻ポリープなど構造的な病変の可能性があるため、耳鼻咽喉科の受診を勧める。 ウ 症状が片側だけなら軽症なので受診は不要である。 エ 点鼻薬を家族と共用して効果を比較する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。片側性・持続性の鼻閉では他の病変を考える必要がある。 イ：正しい。長引く片側性の鼻づまりでは鼻ポリープ等の可能性もあるため、一般用医薬品による自己対処だけで済ませず受診を勧める。 ウ：誤り。片側性の持続症状は評価が必要な場合がある。 エ：誤り。衛生上不適切で感染リスクもある。 総合：長引く片側性の鼻づまりでは鼻ポリープ等の可能性もあるため、一般用医薬品による自己対処だけで済ませず受診を勧める。

0051 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：基礎	
一般用点眼薬の分類として、適切な組合せはどれか。 ア 解熱鎮痛点眼薬・駆虫点眼薬・強心点眼薬・瀉下点眼薬 イ 制酸点眼薬・健胃点眼薬・去痰点眼薬・利尿点眼薬 ウ 人工涙液・一般点眼薬・抗菌性点眼薬・アレルギー用点眼薬 エ 睡眠点眼薬・鎮静点眼薬・催吐点眼薬・止瀉点眼薬	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。一般用点眼薬の基本分類ではない。 イ：誤り。点眼薬の分類として不適切である。 ウ：正しい。一般用点眼薬は、人工涙液、一般点眼薬、抗菌性点眼薬、アレルギー用点眼薬などに分類される。 エ：誤り。一般用点眼薬の分類ではない。 総合：一般用点眼薬は、人工涙液、一般点眼薬、抗菌性点眼薬、アレルギー用点眼薬などに分類される。
0052 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：基礎	
人工涙液の主な目的として、最も適切なのはどれか。 ア 眼圧を大きく下げて緑内障を治療する。 イ 細菌性結膜炎を抗菌作用だけで治療する。 ウ 瞳孔を拡大して視力を改善する。 エ 涙液成分を補い、目の乾燥や異物感などを和らげる。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。人工涙液は緑内障治療薬ではない。 イ：誤り。人工涙液の主作用は抗菌ではない。 ウ：誤り。人工涙液に散瞳作用はない。 エ：正しい。人工涙液は涙液に近い組成の液で、目の乾燥、異物感、コンタクトレンズ使用時の不快感等を和らげるために用いられる。 総合：人工涙液は涙液に近い組成の液で、目の乾燥、異物感、コンタクトレンズ使用時の不快感等を和らげるために用いられる。

0053 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：基礎	
点眼薬の使い方として、適切なのはどれか。 ア 容器の先端をまぶたやまつ毛に触れさせず、点眼後は静かに目を閉じる。 イ 先端を眼球に接触させて確実に薬液を入れる。 ウ 点眼後はすぐに強くまばたきを繰り返す。 エ 家族で同じ点眼容器を共用する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。点眼薬は容器先端の接触を避けて清潔に使用し、点眼後は静かに閉眼して薬液が留まるようにする。 イ：誤り。角膜を傷つけたり容器を汚染したりするおそれがある。 ウ：誤り。薬液が涙とともに流れ出やすくなる。 エ：誤り。感染防止のため共用は避ける。 総合：点眼薬は容器先端の接触を避けて清潔に使用し、点眼後は静かに閉眼して薬液が留まるようにする。
0054 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：基礎	
2種類以上の点眼薬を使う場合の一般的な方法として、適切なのはどれか。 ア 2種類を容器の中で混ぜてから点眼する。 イ 一方を点眼した後、数分程度の間隔を空けて次の点眼薬を使用する。 ウ 間隔を空けず連続して大量に点眼する。 エ 片方は必ず内服して使用する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。製剤の安定性や作用に影響するため混合しない。 イ：正しい。複数の点眼薬を続けて使用すると先の薬液が流れ出ることがあるため、一般に数分程度の間隔を空けて用いる。 ウ：誤り。先に点眼した薬液が洗い流されやすくなる。 エ：誤り。点眼薬は指示された投与経路で使用する。 総合：複数の点眼薬を続けて使用すると先の薬液が流れ出ることがあるため、一般に数分程度の間隔を空けて用いる。

0055 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
ソフトコンタクトレンズを装着中の人が点眼薬を使用したい。適切な対応はどれか。 ア すべての点眼薬はレンズ装着中に問題なく使用できる。 イ 使用可否は製品ごとに違わないので表示確認は不要である。 ウ 製品表示でコンタクトレンズ装着中の使用可否を確認し、使用不可ならレンズを外して点眼する。 エ レンズを外した直後は必ず点眼薬を倍量使用する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。防腐剤等がレンズに吸着することがあり、製品によって使用不可である。 イ：誤り。製品ごとに適否が異なるため表示確認が必要である。 ウ：正しい。コンタクトレンズ装着中の点眼可否は製品により異なる。防腐剤の吸着等を考慮し、添付文書・表示に従う。 エ：誤り。用法用量を超える必要はない。 総合：コンタクトレンズ装着中の点眼可否は製品により異なる。防腐剤の吸着等を考慮し、添付文書・表示に従う。
0056 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
ネオスチグミンメチル硫酸塩が一般点眼薬に配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 角膜表面の細菌を直接殺菌する。 イ 眼表面の水分を吸収して乾燥を促す。 ウ 鼻粘膜の血管を収縮させる。 エ アセチルコリンの分解を抑え、毛様体筋の働きを助けて眼の調節機能を改善する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。抗菌成分ではない。 イ：誤り。乾燥促進を目的とする成分ではない。 ウ：誤り。鼻炎用薬の作用ではない。 エ：正しい。ネオスチグミンメチル硫酸塩はコリンエステラーゼを阻害し、眼の調節機能改善を目的として配合される。 総合：ネオスチグミンメチル硫酸塩はコリンエステラーゼを阻害し、眼の調節機能改善を目的として配合される。

0057 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
テトラヒドロゾリン塩酸塩等が点眼薬に配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 結膜の血管を収縮させ、目の充血を除く。 イ 角膜の真菌を殺菌する。 ウ 涙液分泌を完全に止める。 エ 水晶体を直接透明化する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。テトラヒドロゾリン等のアドレナリン作動成分は、結膜血管を収縮させて充血を軽減する。 イ：誤り。抗真菌成分ではない。 ウ：誤り。そのような目的ではない。 エ：誤り。白内障治療作用をもつ成分ではない。 総合：テトラヒドロゾリン等のアドレナリン作動成分は、結膜血管を収縮させて充血を軽減する。
0058 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
ブラノプロフェンを含む一般点眼薬について、適切なのはどれか。 ア 抗菌性サルファ剤として細菌を殺す。 イ 非ステロイド性抗炎症成分として、目の炎症を抑える目的で用いられる。 ウ 角質を軟化させるために用いる。 エ 抗ヒスタミン成分としてヒスタミン受容体を遮断する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。ブラノプロフェンはNSAIDであり、サルファ剤ではない。 イ：正しい。ブラノプロフェンは非ステロイド性抗炎症成分で、結膜炎などに伴う炎症症状の緩和を目的として用いられる。 ウ：誤り。皮膚用の角質軟化成分ではない。 エ：誤り。作用分類が異なる。 総合：ブラノプロフェンは非ステロイド性抗炎症成分で、結膜炎などに伴う炎症症状の緩和を目的として用いられる。

0059 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
アレルギー用点眼薬にクロルフェニラミンマレイン酸塩が配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 涙液をアルカリ化して細菌を殺す。 イ 角膜の知覚を麻痺させる。 ウ ヒスタミンの作用を抑え、目のかゆみなどを和らげる。 エ 水晶体の弾力を高める。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗ヒスタミン成分の作用ではない。 イ：誤り。局所麻酔成分の作用ではない。 ウ：正しい。抗ヒスタミン成分は、アレルギー反応に伴う目のかゆみや充血等を緩和する目的で用いられる。 エ：誤り。そのような作用ではない。 総合：抗ヒスタミン成分は、アレルギー反応に伴う目のかゆみや充血等を緩和する目的で用いられる。
0060 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：標準	
クロモグリク酸ナトリウムを含むアレルギー用点眼薬について、適切なのはどれか。 ア 放出済みヒスタミンの受容体だけを遮断する成分である。 イ 細菌性結膜炎を直接治療する抗菌成分である。 ウ 治療中の入ほど医療者への相談は不要である。 エ 肥満細胞からヒスタミン等の化学伝達物質が遊離するのを抑える作用があり、医療機関でアレルギー治療中の人は使用前に相談する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。主作用は肥満細胞からの化学伝達物質放出抑制である。 イ：誤り。抗菌薬ではない。 ウ：誤り。治療中の薬との整合を確認するため相談が必要である。 エ：正しい。クロモグリク酸ナトリウムは肥満細胞からのヒスタミン等の遊離を抑える抗アレルギー成分で、治療中の場合は医師等への相談が必要である。 総合：クロモグリク酸ナトリウムは肥満細胞からのヒスタミン等の遊離を抑える抗アレルギー成分で、治療中の場合は医師等への相談が必要である。

0061 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：応用	
スルファメトキサゾール等を含む抗菌性点眼薬について、適切なのはどれか。 ア 細菌感染による結膜炎やものもらいなどに用いられるが、ウイルスや真菌には効果が期待できない。 イ すべての目の充血に原因を問わず使用する。 ウ ウイルス性結膜炎にもサルファ剤が直接効く。 エ 真菌性眼感染症を第一選択で治療する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。抗菌性点眼薬は細菌感染が疑われる目の症状に用いる。原因がウイルスや真菌の場合は効果が期待できず、適切な受診が必要である。 イ：誤り。充血にはアレルギーや異物など多様な原因がある。 ウ：誤り。サルファ剤は細菌に対する抗菌成分である。 エ：誤り。真菌には適応しない。 総合：抗菌性点眼薬は細菌感染が疑われる目の症状に用いる。原因がウイルスや真菌の場合は効果が期待できず、適切な受診が必要である。
0062 [アレルギー・鼻・眼] > [眼科用薬] 難易度：応用	
目の強い痛み、急な視力低下、吐きけを伴う充血を訴える人が一般用点眼薬を求めている。最も適切な対応はどれか。 ア 単なる眼精疲労と決めつけ、充血除去成分だけを勧める。 イ 緑内障発作など重篤な眼疾患の可能性があるので、一般用点眼薬で様子を見ず速やかな受診を勧める。 ウ 点眼回数を増やして数日間経過を見る。 エ 家族の処方点眼薬を借りよう勧める。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。強い痛みや視力低下は重篤疾患の警告症状である。 イ：正しい。強い眼痛、急激な視力低下、吐きけを伴う充血などは重篤な眼疾患を疑う所見であり、速やかな眼科受診が必要である。 ウ：誤り。受診を遅らせるおそれがある。 エ：誤り。処方薬の共用は不適切である。 総合：強い眼痛、急激な視力低下、吐きけを伴う充血などは重篤な眼疾患を疑う所見であり、速やかな眼科受診が必要である。

0063 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
ヒドロコルチゾン酢酸エステル等のステロイド性抗炎症成分が皮膚用薬に配合される主な目的はどれか。 ア 白癬菌を直接殺菌する。 イ 角質を溶解していぼを除去する。 ウ 皮膚の炎症を抑え、腫れ・赤み・かゆみなどを和らげる。 エ 末梢神経を局所麻酔して痛みだけを遮断する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。ステロイドは抗真菌成分ではない。 イ：誤り。角質軟化成分の作用とは異なる。 ウ：正しい。ステロイド性抗炎症成分は炎症反応を抑制し、湿疹・皮膚炎等に伴う腫れ、赤み、かゆみを緩和する。 エ：誤り。局所麻酔成分の作用とは異なる。 総合：ステロイド性抗炎症成分は炎症反応を抑制し、湿疹・皮膚炎等に伴う腫れ、赤み、かゆみを緩和する。
0064 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
感染が疑われる皮膚病変にステロイド性抗炎症成分を使用する場合の考え方として、正しいものはどれか。 ア 化膿している患部ほど免疫反応を抑える目的で積極的に使う。 イ 水虫には抗真菌薬よりステロイド単独を優先する。 ウ 感染の有無は外用薬選択に影響しない。 エ 細菌・真菌・ウイルスによる感染が疑われる患部では、感染を悪化させるおそれがあるため使用を避ける。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。感染に対する抵抗力を弱め、悪化させる可能性がある。 イ：誤り。白癬では抗真菌治療が必要で、ステロイド単独使用は悪化を招き得る。 ウ：誤り。感染性病変かどうかは重要な判断点である。 エ：正しい。ステロイドは局所の免疫・炎症反応を抑えるため、感染性皮膚疾患に単独で使用すると症状を悪化させることがある。 総合：ステロイドは局所の免疫・炎症反応を抑えるため、感染性皮膚疾患に単独で使用すると症状を悪化させることがある。

0065 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
皮膚用ステロイドを広い範囲へ長期間使用することに関する説明として、正しいものはどれか。 ア 広範囲への長期連用は避け、改善しない場合は受診を検討する。 イ 症状が改善しなくても同じ部位へ数か月連用する。 ウ 塗布面積が広いほど安全性が高くなる。 エ 強い炎症ほど用法用量を超えて厚く塗る。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ステロイド外用薬は漫然と長期・広範囲に使用せず、症状が改善しない場合は原因の再評価と受診が必要である。 イ：誤り。長期連用では皮膚萎縮などの局所副作用や全身影響の懸念がある。 ウ：誤り。広範囲では吸収量が増える可能性がある。 エ：誤り。過量使用ではなく、適正量と適切な受診判断が必要である。 総合：ステロイド外用薬は漫然と長期・広範囲に使用せず、症状が改善しない場合は原因の再評価と受診が必要である。
0066 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
インドメタシン、フェルピナク、ジクロフェナクナトリウム等の外用成分の主な目的として適切なものはどれか。 ア ヒスタミン受容体を遮断して花粉症を治療する。 イ プロスタグランジンの産生を抑え、筋肉痛や関節痛などの炎症と痛みを和らげる。 ウ 皮膚糸状菌の細胞膜を障害する。 エ 角質を軟化させていぼを除去する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。抗ヒスタミン成分の作用である。 イ：正しい。外用NSAIDsはプロスタグランジン産生を抑えることで、打撲・捻挫・筋肉痛・関節痛等に伴う炎症と痛みを緩和する。 ウ：誤り。抗真菌成分の作用である。 エ：誤り。サリチル酸等の角質軟化成分の作用である。 総合：外用NSAIDsはプロスタグランジン産生を抑えることで、打撲・捻挫・筋肉痛・関節痛等に伴う炎症と痛みを緩和する。

0067 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
解熱鎮痛薬で喘息発作を起こしたことがある人が、NSAIDs配合の外用鎮痛消炎薬を希望している。適切な対応はどれか。 ア 外用なら全身への影響がないので自由に使用できる。 イ 過去の喘息発作は内服薬だけの問題なので確認不要である。 ウ 外用薬でも喘息発作を誘発するおそれがあるため、使用を避ける。 エ 症状が強いほど塗布量を増やせば安全になる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。皮膚から吸収され、NSAIDs過敏喘息を誘発する可能性がある。 イ：誤り。NSAIDsによる喘息既往は外用製剤でも重要な使用回避情報である。 ウ：正しい。NSAIDsで喘息を起こしたことがある人は、外用NSAIDsでも発作を誘発する可能性があるため使用を避ける。 エ：誤り。過量使用は不適切である。 総合：NSAIDsで喘息を起こしたことがある人は、外用NSAIDsでも発作を誘発する可能性があるため使用を避ける。
0068 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：基礎	
ケトプロフェンを含む外用鎮痛消炎薬の使用上の注意として、適切なのはどれか。 ア 日光に当てるほど薬効が高まる。 イ 使用直後だけ注意すれば、その後の紫外線対策は不要である。 ウ 過去にケトプロフェンで光線過敏症があっても再使用してよい。 エ 光線過敏症を起こすことがあるため、使用部位を紫外線にさらさないよう注意する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。紫外線により光線過敏症を起こすおそれがある。 イ：誤り。使用後もしばらく光線過敏に注意する必要がある。 ウ：誤り。既往がある場合は再使用を避けるべきである。 エ：正しい。ケトプロフェンでは光線過敏症が知られているため、使用中だけでなく使用後も患部への紫外線曝露を避けることが重要である。 総合：ケトプロフェンでは光線過敏症が知られているため、使用中だけでなく使用後も患部への紫外線曝露を避けることが重要である。

0069 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
皮膚のかゆみを抑える目的で配合される鎮痒成分として適切なのはどれか。 ア クロタミトン イ テルピナフィン塩酸塩 ウ ボビドンヨード エ サリチル酸	答え・解説 正答：ア ア：正しい。クロタミトンは皮膚への軽い刺激によりかゆみを感じにくくするなどの鎮痒作用を期待して用いられる。 イ：誤り。抗真菌成分である。 ウ：誤り。殺菌消毒成分である。 エ：誤り。主に角質軟化作用を期待して用いられる。 総合：クロタミトンは皮膚への軽い刺激によりかゆみを感じにくくするなどの鎮痒作用を期待して用いられる。
0070 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
リドカイン等が皮膚用薬に配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 真菌の細胞膜合成を阻害する。 イ 知覚神経の伝達を遮断して、痛みやかゆみを和らげる。 ウ 血液凝固を促して止血する。 エ 角質層の水分を除去する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。抗真菌成分の作用である。 イ：正しい。リドカイン、ジブカイン等の局所麻酔成分は知覚神経の伝導を遮断し、痛み・かゆみを一時的に感じにくくする。 ウ：誤り。局所麻酔の作用ではない。 エ：誤り。局所麻酔成分の作用ではない。 総合：リドカイン、ジブカイン等の局所麻酔成分は知覚神経の伝導を遮断し、痛み・かゆみを一時的に感じにくくする。

0071 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
ジフェンヒドラミン塩酸塩を含む皮膚用薬の主な目的はどれか。 ア 皮膚糸状菌を殺菌する。 イ 角質を溶かしていぼを除去する。 ウ ヒスタミンによるかゆみを和らげる。 エ 捻挫部位のプロスタグランジン産生だけを抑える。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗真菌作用を目的とする成分ではない。 イ：誤り。角質軟化成分ではない。 ウ：正しい。外用抗ヒスタミン成分は虫刺されや湿疹などに伴うかゆみを抑える目的で用いられる。 エ：誤り。NSAIDsとは作用機序が異なる。 総合：外用抗ヒスタミン成分は虫刺されや湿疹などに伴うかゆみを抑える目的で用いられる。
0072 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
メントールやカンフルを含む外用薬について、適切なのはどれか。 ア 真菌感染を根治するために用いる。 イ 化膿創を無菌化する主成分である。 ウ 眼球に直接使用する。 エ 皮膚への刺激感を利用して痛みやかゆみを軽減する目的で用いられることがある。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。冷感・温感刺激成分は抗真菌薬ではない。 イ：誤り。殺菌消毒を主目的とする成分ではない。 ウ：誤り。皮膚刺激が強く、眼への使用は不適切である。 エ：正しい。メントール、カンフル等は局所の冷感・温感などの刺激を利用し、痛みやかゆみを和らげる補助成分として使われる。 総合：メントール、カンフル等は局所の冷感・温感などの刺激を利用し、痛みやかゆみを和らげる補助成分として使われる。

0073 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
サリチル酸を含む外用薬について、適切なのはどれか。 ア 角質を軟化させる作用があり、うおのめ・たこ・いぼ等に用いられる。 イ 眼の充血を除くために点眼する。 ウ 鼻粘膜の血管を収縮させる。 エ 鉄欠乏性貧血を改善する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。サリチル酸は角質軟化作用をもち、角化した皮膚を軟らかくする目的で用いられる。正常皮膚や粘膜への付着を避ける。 イ：誤り。眼に使用する成分ではない。 ウ：誤り。アドレナリン作動成分ではない。 エ：誤り。鉄分補給成分ではない。 総合：サリチル酸は角質軟化作用をもち、角化した皮膚を軟らかくする目的で用いられる。正常皮膚や粘膜への付着を避ける。
0074 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
イオウがにきび用薬などに配合される理由として、適切なのはどれか。 ア 強いステロイド作用を示すため。 イ 角質軟化作用や抗菌作用を期待して用いられる。 ウ 抗ヒスタミン作用だけを示すため。 エ 毛様体筋の調節機能を改善するため。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。イオウはステロイドではない。 イ：正しい。イオウは角質軟化・抗菌作用をもち、にきび等の外用薬に用いられる。 ウ：誤り。主な特徴は角質軟化や抗菌作用である。 エ：誤り。眼科用薬の作用ではない。 総合：イオウは角質軟化・抗菌作用をもち、にきび等の外用薬に用いられる。

0075 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
イブプロフェンピコノールを含むにきび用薬について、適切なのはどれか。 ア 白癬菌を殺す抗真菌成分である。 イ 毛髪の成長を直接促進する成分である。 ウ 非ステロイド性抗炎症成分として、にきびに伴う炎症を抑える。 エ 尿路の殺菌消毒を目的とする。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗真菌薬ではない。 イ：誤り。発毛促進成分ではない。 ウ：正しい。イブプロフェンピコノールは非ステロイド性抗炎症成分で、にきびに伴う炎症を抑える目的で外用される。 エ：誤り。泌尿器用成分ではない。 総合：イブプロフェンピコノールは非ステロイド性抗炎症成分で、にきびに伴う炎症を抑える目的で外用される。
0076 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
すり傷などに用いる殺菌消毒薬について、適切なのはどれか。 ア 汚れを残したまま消毒薬を大量に塗れば洗浄は不要である。 イ 深い刺し傷や広範囲の重度熱傷も一般用消毒薬だけで治療する。 ウ 眼や口腔に使用できない製品でも、薄めれば必ず使用できる。 エ 土や汚れが付着している場合は、まず流水などで十分に洗い流してから適切に使用する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。異物や汚れを除去することが創傷処置の基本である。 イ：誤り。重い創傷では受診が必要である。 ウ：誤り。適用部位は製品表示に従う必要がある。 エ：正しい。創傷ではまず汚れや異物を洗い流すことが重要で、殺菌消毒薬は適応・用法を守って使用する。深い傷や広範囲の熱傷等は受診が必要である。 総合：創傷ではまず汚れや異物を洗い流すことが重要で、殺菌消毒薬は適応・用法を守って使用する。深い傷や広範囲の熱傷等は受診が必要である。

0077 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
ポピドンヨードを含む外用殺菌消毒薬について、適切なのはどれか。 ア ヨウ素に対するアレルギー歴がある人では使用を避け、異常が出た場合は中止する。 イ ヨウ素アレルギーがあるほど安全に使用できる。 ウ すべての粘膜や眼に自由に使用できる。 エ 真菌症の長期治療に必ず第一選択となる。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ヨウ素系殺菌消毒成分ではアレルギー反応に注意し、使用可能な部位・濃度は製品表示に従う。 イ：誤り。アレルギー反応を起こすおそれがある。 ウ：誤り。製品ごとの適用部位を守る必要がある。 エ：誤り。白癬等には適切な抗真菌薬を用いる。 総合：ヨウ素系殺菌消毒成分ではアレルギー反応に注意し、使用可能な部位・濃度は製品表示に従う。
0078 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：標準	
白癬（水虫）について、適切なのはどれか。 ア 細菌だけが原因なので抗菌性点眼薬が有効である。 イ 白癬菌という真菌が皮膚の角質層などに感染して起こり、足を清潔・乾燥に保つことが再感染予防に重要である。 ウ 患部を常に湿った状態にすると治りやすい。 エ 家族内でスリッパや足拭きマットを共用するほど感染を防げる。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。白癬菌は真菌であり、抗真菌薬を用いる。 イ：正しい。白癬は皮膚糸状菌による感染症で、抗真菌薬の継続使用とともに患部を清潔・乾燥に保ち、家族内感染を防ぐ。 ウ：誤り。湿潤環境は白癬菌が増殖しやすく、乾燥を保つことが重要である。 エ：誤り。共用は感染拡大につながる可能性がある。 総合：白癬は皮膚糸状菌による感染症で、抗真菌薬の継続使用とともに患部を清潔・乾燥に保ち、家族内感染を防ぐ。

0079 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：応用	
白癬に用いるイミダゾール系抗真菌成分として適切なのはどれか。 ア クロルフェニラミンマレイン酸塩 イ ナファゾリン塩酸塩 ウ クロトリマゾール エ ネオスチグミンメチル硫酸塩	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗ヒスタミン成分である。 イ：誤り。アドレナリン作動成分である。 ウ：正しい。クロトリマゾール、ミコナゾール硝酸塩、エコナゾール硝酸塩等はイミダゾール系抗真菌成分として白癬等に用いられる。 エ：誤り。眼の調節機能改善成分である。 総合：クロトリマゾール、ミコナゾール硝酸塩、エコナゾール硝酸塩等はイミダゾール系抗真菌成分として白癬等に用いられる。
0080 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：応用	
外用抗真菌成分について、適切なのはどれか。 ア いずれも抗ヒスタミン成分として花粉症に用いられる。 イ いずれも女性ホルモン成分である。 ウ いずれも角膜の乾燥を防ぐ人工涙液成分である。 エ テルビナフィン塩酸塩やブテナフィン塩酸塩は、白癬などの皮膚真菌症に用いられる。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。抗真菌成分である。 イ：誤り。ホルモン成分ではない。 ウ：誤り。点眼用保湿成分ではない。 エ：正しい。テルビナフィン、ブテナフィン等は真菌の細胞膜成分の形成を妨げるなどして、白癬菌の増殖を抑える。 総合：テルビナフィン、ブテナフィン等は真菌の細胞膜成分の形成を妨げるなどして、白癬菌の増殖を抑える。

0081 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：応用	
足のかゆみと皮むけがあり水虫と思って抗真菌薬を2週間使ったが、悪化している人への対応として適切なのはどれか。 ア 湿疹など白癬以外の可能性もあるため、自己判断で使用を続けず皮膚科受診を勧める。 イ 水虫と決めつけ、ステロイド単独薬へ切り替える。 ウ 効果がないほど抗真菌薬の使用量を大幅に増やす。 エ 皮むけがあれば必ず白癬なので受診は不要である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。白癬と湿疹などは外見だけで区別しにくいことがある。抗真菌薬で改善しない・悪化する場合は診断確認のため受診する。 イ：誤り。白癬にステロイド単独を用いると悪化する可能性がある。 ウ：誤り。診断が異なる可能性があり、過量使用は不適切である。 エ：誤り。湿疹・接触皮膚炎など類似症状がある。 総合：白癬と湿疹などは外見だけで区別しにくいことがある。抗真菌薬で改善しない・悪化する場合は診断確認のため受診する。
0082 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [皮膚に用いる薬] 難易度：応用	
カルプロニウム塩化物を含む毛髪用薬について、適切なのはどれか。 ア 頭皮の血管を収縮させて毛根への血流を減らす。 イ 頭皮の血管を拡張して血行を促進するが、局所又は全身性の発汗や刺激感などが現れることがある。 ウ 真菌を殺菌することだけを目的とする。 エ 眼に入っても刺激性がないため洗浄不要である。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。カルプロニウムは血管拡張・血行促進を期待して用いられる。 イ：正しい。カルプロニウム塩化物はコリン作動作用により頭皮の血管を拡張して血行を促進し、発毛促進等を期待して用いられる。 ウ：誤り。主目的は発毛促進・脱毛防止の補助である。 エ：誤り。眼に入った場合は洗い流す必要がある。 総合：カルプロニウム塩化物はコリン作動作用により頭皮の血管を拡張して血行を促進し、発毛促進等を期待して用いられる。

0083 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [歯痛・歯槽膿漏薬] 難易度：基礎	
一般用の歯痛薬について、最も適切なのはどれか。 ア 虫歯を完全に修復して再発を防ぐ薬である。 イ 歯の神経を再生させることを目的とする。 ウ 歯痛を一時的に和らげる対症療法であり、虫歯など原因そのものを治すものではない。 エ 歯槽膿漏の原因菌を必ず根絶する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。歯痛薬は原因治療ではなく一時的な症状緩和が目的である。 イ：誤り。そのような作用はない。 ウ：正しい。歯痛薬は歯科受診までの一時的な疼痛緩和に用いるもので、虫歯や歯髄炎など原因疾患の治療には歯科診療が必要である。 エ：誤り。一般用歯科用薬だけで原因疾患を根治できるとは限らない。 総合：歯痛薬は歯科受診までの一時的な疼痛緩和に用いるもので、虫歯や歯髄炎など原因疾患の治療には歯科診療が必要である。
0084 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [歯痛・歯槽膿漏薬] 難易度：標準	
歯痛薬にアミノ安息香酸エチル等が配合される主な目的はどれか。 ア 歯垢を物理的に除去する。 イ 歯肉のコラーゲンを増やして歯を再生する。 ウ 唾液中のヒスタミンだけを除去する。 エ 歯の知覚神経の伝達を抑え、痛みを一時的に感じにくくする。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。局所麻酔成分の作用ではない。 イ：誤り。そのような作用ではない。 ウ：誤り。抗ヒスタミン作用ではない。 エ：正しい。アミノ安息香酸エチル、ジブカイン塩酸塩等は局所麻酔作用により歯痛を一時的に和らげる。 総合：アミノ安息香酸エチル、ジブカイン塩酸塩等は局所麻酔作用により歯痛を一時的に和らげる。

0085 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [歯痛・歯槽膿漏薬] 難易度：標準	
歯槽膿漏薬に配合される外用成分の目的として、適切なのはどれか。 ア 殺菌消毒、抗炎症、収斂、組織修復などにより歯肉の炎症や出血等を和らげる。 イ 胃酸分泌を抑えて歯肉炎を治す。 ウ 大腸を刺激して歯肉出血を止める。 エ 鼻粘膜を収縮させることで歯周組織を治療する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。歯槽膿漏薬には殺菌消毒、抗炎症、収斂、組織修復等の成分が配合され、歯肉炎・歯肉出血等を緩和する。 イ：誤り。胃酸分泌と歯肉の局所治療は別の作用である。 ウ：誤り。瀉下作用は歯槽膿漏治療と関係しない。 エ：誤り。鼻炎用薬の作用である。 総合：歯槽膿漏薬には殺菌消毒、抗炎症、収斂、組織修復等の成分が配合され、歯肉炎・歯肉出血等を緩和する。
0086 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [歯痛・歯槽膿漏薬] 難易度：応用	
歯肉からの出血と腫れが数週間続き、歯がぐらつく人への対応として最も適切なのはどれか。 ア 一般用歯槽膿漏薬だけを長期連用すればよい。 イ 口腔内を清潔に保つよう助言するとともに、歯周病の進行が疑われるため歯科受診を勧める。 ウ 歯磨きを中止して患部を刺激しないようにする。 エ 歯のぐらつきは歯周病とは無関係である。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。進行した歯周病では歯科治療が必要である。 イ：正しい。歯槽膿漏薬は症状緩和の補助であり、口腔衛生の維持が基本である。出血・腫れの持続や歯の動揺では歯科受診が必要である。 ウ：誤り。適切な口腔清掃は歯周病予防・管理の基本である。 エ：誤り。歯周組織の破壊が進むと歯の動揺がみられることがある。 総合：歯槽膿漏薬は症状緩和の補助であり、口腔衛生の維持が基本である。出血・腫れの持続や歯の動揺では歯科受診が必要である。

0087 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [口内炎用薬] 難易度：基礎	
一般用の口内炎用薬の主な目的として適切なのはどれか。 ア 虫歯を削らずに完全修復する。 イ 全身性の細菌感染症を治療する。 ウ 口腔粘膜の炎症を抑え、痛みなどの症状を和らげる。 エ 胃潰瘍を治療する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。口内炎用薬は虫歯治療薬ではない。 イ：誤り。局所の口内炎症状の緩和が主目的である。 ウ：正しい。口内炎用薬は、口腔粘膜の炎症や痛みなどを局所的に和らげる目的で用いられる。 エ：誤り。口腔粘膜に用いる薬であり、胃潰瘍治療薬ではない。 総合：口内炎用薬は、口腔粘膜の炎症や痛みなどを局所的に和らげる目的で用いられる。
0088 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [口内炎用薬] 難易度：標準	
口内炎用薬にステロイド性抗炎症成分等が配合される目的として、適切なのはどれか。 ア 白癬菌を殺菌するため。 イ 鼻粘膜血管を収縮させるため。 ウ 便秘を改善するため。 エ 口腔粘膜の炎症を抑え、腫れや痛みを和らげる。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。抗真菌薬の目的ではない。 イ：誤り。鼻炎用薬の作用ではない。 ウ：誤り。瀉下作用とは無関係である。 エ：正しい。口内炎用薬では抗炎症成分が局所の炎症を抑え、痛みや腫れなどの症状を緩和する。 総合：口内炎用薬では抗炎症成分が局所の炎症を抑え、痛みや腫れなどの症状を緩和する。

0089 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [口内炎用薬] 難易度：標準	
口内炎用薬に用いられることがあるシコンについて、適切なのはどれか。 ア ムラサキの根を基原とする生薬で、抗炎症や組織修復を期待して用いられる。 イ ヒキガエルの分泌物を基原とする強心生薬である。 ウ クマコケモモの葉を基原とする尿路消毒生薬である。 エ ペニバナの花を基原とする末梢血行改善生薬である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。シコンはムラサキ科ムラサキの根を基原とし、口腔粘膜等の炎症を抑え、組織修復を助ける目的で用いられる。 イ：誤り。これはセンソの説明である。 ウ：誤り。これはウワウルシの説明である。 エ：誤り。これはコウカの説明である。 総合：シコンはムラサキ科ムラサキの根を基原とし、口腔粘膜等の炎症を抑え、組織修復を助ける目的で用いられる。
0090 [皮膚・歯や口中に用いる薬] > [口内炎用薬] 難易度：応用	
口内炎が2週間以上治らず、同じ場所に繰り返しできる人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 口内炎は必ず自然治癒するので何か月でも様子を見る。 イ 他の疾患が背景にある可能性もあるため、口内炎用薬を漫然と続けず医療機関や歯科の受診を勧める。 ウ 同じ場所に繰り返し出すほど薬を重ね塗りする。 エ 口腔清掃を避け、食物残渣を残して患部を保護する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。通常は1～2週間程度で改善することが多く、長引く場合は評価が必要である。 イ：正しい。口内炎は通常1～2週間程度で自然に改善することが多い。長引く、繰り返し、範囲が広い場合は他の疾患も考えて受診する。 ウ：誤り。原因確認を遅らせるため不適切である。 エ：誤り。口腔内を清潔に保つことが基本である。 総合：口内炎は通常1～2週間程度で自然に改善することが多い。長引く、繰り返し、範囲が広い場合は他の疾患も考えて受診する。

0091 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：基礎	
禁煙時にみられるニコチン離脱症状について、適切なのはどれか。 ア 血中ニコチン濃度の低下に伴い、イライラ感、集中困難、落ち着かないなどが現れることがある。 イ 禁煙を始めると必ず高熱と発疹が出る。 ウ 離脱症状はニコチン摂取量が増えるほど起こりにくくなる。 エ 離脱症状は喫煙習慣とは無関係である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。習慣的喫煙ではニコチンへの依存が形成され、血中ニコチン濃度が低下するとイライラ感、集中困難、落ち着かないなどの離脱症状が現れる。 イ：誤り。ニコチン離脱症状の代表ではない。 ウ：誤り。依存が形成されるとニコチン濃度低下時に離脱症状が現れやすい。 エ：誤り。習慣的喫煙によるニコチン依存と密接に関係する。 総合：習慣的喫煙ではニコチンへの依存が形成され、血中ニコチン濃度が低下するとイライラ感、集中困難、落ち着かないなどの離脱症状が現れる。

0092 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：基礎	
ニコチン置換療法の説明として、最も適切なのはどれか。 ア 喫煙本数を増やしてニコチン濃度を安定させる方法である。 イ 喫煙以外の方法でニコチンを補い、離脱症状を軽減しながら徐々に摂取量を減らして最終的にゼロを目指す。 ウ ニコチンを一切含まない鎮静薬だけで禁煙する方法である。 エ 禁煙開始直後から大量のニコチンを一度に使用する方法である。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。禁煙を目的とする療法であり、喫煙継続を促すものではない。 イ：正しい。ニコチン置換療法は、禁煙の意思を前提に、喫煙以外の方法でニコチンを補って離脱症状を軽減し、最終的にニコチン摂取をなくす方法である。 ウ：誤り。一般用禁煙補助剤はニコチンを有効成分とする。 エ：誤り。過量使用は副作用リスクを高める。 総合：ニコチン置換療法は、禁煙の意思を前提に、喫煙以外の方法でニコチンを補って離脱症状を軽減し、最終的にニコチン摂取をなくす方法である。

0093 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：標準	
ニコチン咀嚼剤の使用方法として、適切なのはどれか。 ア 短時間で強く噛み続け、唾液ごとニコチンを多量に飲み込む。 イ 禁煙を早めるため1度に複数個をまとめて使用する。 ウ 菓子のガムのように連続して強く噛まず、ゆっくり断続的に噛み、1度に2個以上は使用しない。 エ 噛まずに丸のみして胃から吸収させる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。ニコチンが飲み込まれると口腔粘膜からの吸収が不十分となり、吐きけや腹痛等が起こりやすい。 イ：誤り。ニコチン過剰摂取の危険があるため避ける。 ウ：正しい。ニコチン咀嚼剤はゆっくり断続的に噛み、口腔粘膜から吸収させる。大量使用で禁煙達成が早まるわけではなく、1度に2個以上の使用を避ける。 エ：誤り。咀嚼剤は口腔粘膜からの吸収を目的とする。 総合：ニコチン咀嚼剤はゆっくり断続的に噛み、口腔粘膜から吸収させる。大量使用で禁煙達成が早まるわけではなく、1度に2個以上の使用を避ける。
0094 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：標準	
一般用禁煙補助剤の使用を避けるべき人として、最も適切なのはどれか。 ア 軽い肩こりだけがある健康成人 イ 近視で眼鏡を使用している人 ウ 過去に虫歯治療を受けた人 エ 3か月以内に心筋梗塞を起こした人や、重い狭心症・不整脈と診断された人	答え・解説 正答：エ ア：誤り。それだけでは代表的な使用回避条件ではない。 イ：誤り。近視は禁煙補助剤の代表的禁忌ではない。 ウ：誤り。虫歯治療歴は代表的禁忌ではない。 エ：正しい。ニコチンは循環器系に作用するため、急性期脳血管障害や重い心臓病がある人では重大な悪影響を及ぼすおそれがあり、使用を避ける。 総合：ニコチンは循環器系に作用するため、急性期脳血管障害や重い心臓病がある人では重大な悪影響を及ぼすおそれがあり、使用を避ける。

0095 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：標準	
禁煙補助剤を使用している人への説明として、適切なのはどれか。 ア 使用中は喫煙を完全にやめ、コーヒーや炭酸飲料の摂取直後はニコチン咀嚼剤の使用を避ける。 イ 禁煙補助剤と喫煙を併用すると禁煙が早まる。 ウ コーヒーは口腔内をアルカリ性にしてニコチン吸収を高めるので同時摂取する。 エ 他のニコチン含有製剤を併用すると副作用が減る。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。禁煙補助剤は喫煙を完全に止めた上で使用する。口腔内が酸性になるとニコチン吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料摂取後しばらくは咀嚼剤を避ける。 イ：誤り。血中ニコチン濃度が急上昇し、過剰摂取のおそれがある。 ウ：誤り。口腔内が酸性になるとニコチン吸収が低下する。 エ：誤り。ニコチン過剰摂取につながるおそれがある。 総合：禁煙補助剤は喫煙を完全に止めた上で使用する。口腔内が酸性になるとニコチン吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料摂取後しばらくは咀嚼剤を避ける。

0096 [禁煙・滋養強壮] > [禁煙補助剤] 難易度：応用	
添付文書に定められた期間を超えて禁煙補助剤を使い続けても禁煙できない人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 禁煙できるまで同じ量を無期限に継続する。 イ 漫然と継続せず、ニコチン依存症の治療を行う禁煙外来の受診を勧めることを検討する。 ウ 使用量を自己判断で倍増する。 エ 禁煙できない場合は喫煙と併用して調整する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。禁煙補助剤は長期間使用すべきものではない。 イ：正しい。禁煙補助剤は定められた使用期間を守る。重度の依存で禁煙が困難な場合は、禁煙外来等の専門的治療につなげることが重要である。 ウ：誤り。ニコチン過剰摂取の危険がある。 エ：誤り。併用は血中ニコチン濃度上昇の危険がある。 総合：禁煙補助剤は定められた使用期間を守る。重度の依存で禁煙が困難な場合は、禁煙外来等の専門的治療につなげることが重要である。

0097 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：基礎	
滋養強壮保健薬について、適切なのはどれか。 ア すべて食品として扱われる。 イ 感染症を直接治療する抗菌薬だけを指す。 ウ 体調不良を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素不足による症状の改善・予防などを目的とする医薬品である。 エ 特定部位の症状への効能は医薬部外品だけに認められる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。医薬品として扱われる滋養強壮保健薬がある。 イ：誤り。ビタミン、カルシウム、アミノ酸、生薬等を含む保健薬を指す。 ウ：正しい。滋養強壮保健薬は、ビタミン、カルシウム、アミノ酸、生薬等を配合し、体質改善や栄養素不足に伴う症状の改善・予防等を目的とする。 エ：誤り。神経痛、筋肉痛、しみ・そばかす等の特定部位の効能は医薬品にのみ認められる。 総合：滋養強壮保健薬は、ビタミン、カルシウム、アミノ酸、生薬等を配合し、体質改善や栄養素不足に伴う症状の改善・予防等を目的とする。
0098 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：基礎	
体内でのビタミンの役割と摂取上の注意について、正しい説明はどれか。 ア 多く摂取するほど症状改善が必ず速くなる。 イ すべて体内で十分に合成できるため食事から摂る必要はない。 ウ それ自体が主要なエネルギー源として大量に使われる。 エ 微量で代謝に重要な働きを担うが体内で十分に産生できず、外部から摂取する必要があるものが多い。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。過剰摂取で改善が早まるわけではなく、脂溶性ビタミンでは過剰症もある。 イ：誤り。外部からの摂取が必要なものとして定義される。 ウ：誤り。ビタミンは微量で代謝に関与し、主要なエネルギー源ではない。 エ：正しい。ビタミンは微量で生体代謝に重要な働きを担うが、体内で十分に産生できないため外部から摂る必要がある。脂溶性ビタミンの過剰摂取には注意する。 総合：ビタミンは微量で生体代謝に重要な働きを担うが、体内で十分に産生できないため外部から摂る必要がある。脂溶性ビタミンの過剰摂取には注意する。

0099 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：基礎	
夜間視力や皮膚・粘膜の維持に関わるビタミンAについて、正しい説明はどれか。 ア 夜間視力や皮膚・粘膜機能の維持に重要で、妊娠前後の過剰摂取には注意が必要である。 イ 主に血液凝固だけに関与する。 ウ 妊娠初期は過剰摂取しても胎児への影響はない。 エ β-カロテンは摂取量の全てが無条件にビタミンAへ変換される。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ビタミンAは夜間視力と皮膚・粘膜の正常維持に重要で、妊娠3か月前から妊娠3か月までの過剰摂取に特に注意する。 イ：誤り。ビタミンAの主要な説明ではない。 ウ：誤り。妊娠前後の過剰摂取と先天異常増加の報告がある。 エ：誤り。必要な分だけビタミンAに転換されるとされる。 総合：ビタミンAは夜間視力と皮膚・粘膜の正常維持に重要で、妊娠3か月前から妊娠3か月までの過剰摂取に特に注意する。
0100 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：標準	
ビタミンDの働きと過剰摂取について、適切なのはどれか。 ア 鉄の吸収だけを促進する栄養素である。 イ カルシウム吸収・再吸収を促して骨形成を助ける一方、過剰では高カルシウム血症を生じることがある。 ウ 過剰摂取では低カルシウム血症だけが生じる。 エ 骨歯の発育とは関係しない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。主にカルシウム代謝と骨形成に関与する。 イ：正しい。ビタミンDは腸管でのカルシウム吸収や腎尿細管での再吸収を促進し、骨形成を助ける。過剰症として高カルシウム血症や異常石灰化がある。 ウ：誤り。高カルシウム血症や異常石灰化が知られている。 エ：誤り。骨歯の発育に重要な栄養素である。 総合：ビタミンDは腸管でのカルシウム吸収や腎尿細管での再吸収を促進し、骨形成を助ける。過剰症として高カルシウム血症や異常石灰化がある。

0101 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：標準	
ビタミンB群の説明として、適切なのはどれか。 ア ビタミンB1は主に骨の石灰化だけに関与する。 イ ビタミンB2は鉄欠乏性貧血の鉄補給成分である。 ウ ビタミンB1は炭水化物からのエネルギー産生に関与し、ビタミンB2は脂質代謝と皮膚・粘膜機能の維持に関与する。 エ ビタミンB1とB2はどちらも過剰摂取で必ず高カルシウム血症を起こす。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。骨形成を主に助けるのはビタミンD等である。 イ：誤り。ビタミンB2は脂質代謝や皮膚・粘膜機能に関与する。 ウ：正しい。ビタミンB1は糖質からのエネルギー産生と神経機能、B2は脂質代謝と皮膚・粘膜の正常維持に重要である。 エ：誤り。そのような共通過剰症ではない。 総合：ビタミンB1は糖質からのエネルギー産生と神経機能、B2は脂質代謝と皮膚・粘膜の正常維持に重要である。
0102 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：標準	
カルシウム主薬製剤を使用している人への助言として、適切なのはどれか。 ア カルシウムは医薬品間で重複しても過剰症を起こさない。 イ カルシウムは骨や歯以外の生理機能には関与しない。 ウ カルシウム製剤使用中は他の医薬品の成分確認は不要である。 エ 胃腸薬などにもカルシウム成分が含まれることがあるため、併用による過剰摂取に注意する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。過剰摂取では高カルシウム血症が問題となる。 イ：誤り。筋収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。 ウ：誤り。補給目的でない薬にもカルシウムが含まれることがある。 エ：正しい。カルシウムは骨・歯の形成だけでなく筋収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。複数製剤からの重複摂取で高カルシウム血症を生じないように注意する。 総合：カルシウムは骨・歯の形成だけでなく筋収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。複数製剤からの重複摂取で高カルシウム血症を生じないように注意する。

0103 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：応用	
滋養強壮保健薬に用いられる成分の説明として、適切なのはどれか。 ア システインはメラニン生成抑制や代謝促進に関与し、タウリンは細胞機能維持や肝機能改善を期待して用いられる。 イ システインは鼻粘膜血管を収縮させる成分である。 ウ タウリンは皮膚真菌を殺菌する抗真菌成分である。 エ 両成分とも大腸刺激性瀉下成分である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。システインは色素沈着や二日酔い等の症状緩和に、タウリンは細胞機能維持や肝機能改善を期待して滋養強壮保健薬に用いられる。 イ：誤り。アドレナリン作動成分ではない。 ウ：誤り。抗真菌薬ではない。 エ：誤り。瀉下成分ではない。 総合：システインは色素沈着や二日酔い等の症状緩和に、タウリンは細胞機能維持や肝機能改善を期待して滋養強壮保健薬に用いられる。
0104 [禁煙・滋養強壮] > [滋養強壮保健薬] 難易度：応用	
数種類の生薬をアルコールで抽出した薬用酒について、適切な説明はどれか。 ア アルコールを含まないため運転への影響はない。 イ アルコールを含むため服用後の運転を避け、出血しやすい状態では血行促進作用にも注意する。 ウ 手術直後ほど血行促進目的で積極的に使用する。 エ 生薬製剤なので副作用は起こらない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。薬用酒はアルコールを含む。 イ：正しい。薬用酒は滋養強壮を目的とするが、血行促進により手術・出産直後など出血しやすい人では不適切で、アルコール含有のため服用後の運転も避ける。 ウ：誤り。出血しやすい時期では使用を避ける。 エ：誤り。生薬でも強い作用や副作用を示すものがある。 総合：薬用酒は滋養強壮を目的とするが、血行促進により手術・出産直後など出血しやすい人では不適切で、アルコール含有のため服用後の運転も避ける。

0105 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：基礎	
漢方医学について、適切なのはどれか。 ア 現代中国の中医学と全く同一の医学体系である。 イ 韓国の韓医学で用いる薬を漢方薬と呼ぶ。 ウ 中国から伝わった医学が日本で独自に発展した伝統医学であり、現代中国の中医学とは区別される。 エ 西洋医学を日本語に訳した呼称である。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。漢方医学と中医学は歴史的な源流を共有するが、考え方や発展過程が異なる。 イ：誤り。韓医学で用いる薬は韓方薬と呼ばれ、漢方薬とは区別される。 ウ：正しい。漢方医学は中国から伝来した医学が日本で発展したもので、中医学や韓医学とは区別される。 エ：誤り。西洋医学とは異なる日本の伝統医学である。 総合：漢方医学は中国から伝来した医学が日本で発展したもので、中医学や韓医学とは区別される。
0106 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：基礎	
漢方処方製剤の考え方として、最も適切なのはどれか。 ア 配合生薬をそれぞれ独立した単剤としてのみ評価する。 イ 有効成分は必ず1種類だけで構成される。 ウ 患者の体質や症状に関係なく同じ処方を選ぶ。 エ 複数の生薬の組合せせからなる処方全体を、一つの有効成分のように捉えて適応を判断する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。漢方処方は処方全体としての性質・適用性を重視する。 イ：誤り。基本的に複数の生薬を組み合わせる。 ウ：誤り。体質・症状に合う処方選択が重要である。 エ：正しい。漢方処方は複数生薬の相互関係を含めた処方全体として評価し、使用者の体質・症状等に適したものを選択する。 総合：漢方処方は複数生薬の相互関係を含めた処方全体として評価し、使用者の体質・症状等に適したものを選択する。

0107 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：基礎	
一般用漢方処方製剤の効能・効果にみられる「体力中等度で」などの表現について、適切なものはどれか。 ア 漢方の「証」を一般の生活者にも理解しやすい形で示した「しばり」の一例である。 イ 漢方では体質を考慮しないことを示す表現である。 ウ 用量を半分にする指示を意味する。 エ 製剤の保存温度を示す表現である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。一般用漢方では専門用語の「証」をそのまま使わず、体力や冷え・のぼせ等の分かりやすい表現を「しばり」として効能・効果に反映している。 イ：誤り。体質・症状に合った処方を選ぶための表現である。 ウ：誤り。用量ではなく適用となる体質・病態を示す。 エ：誤り。保存条件とは無関係である。 総合：一般用漢方では専門用語の「証」をそのまま使わず、体力や冷え・のぼせ等の分かりやすい表現を「しばり」として効能・効果に反映している。
0108 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：基礎	
漢方処方の「しばり」で、虚の病態に適する処方を示す表現として最も適切なものはどれか。 ア 体力が充実して イ 体力虚弱で ウ 体力中等度で エ 体力に関わらず	答え・解説 正答：イ ア：誤り。実の病態に適する処方で用いられる表現である。 イ：正しい。一般用漢方処方では、実は「体力が充実して」、虚は「体力虚弱で」などの表現で適応となる体質を示す。 ウ：誤り。虚実中間の病態に用いられる表現である。 エ：誤り。虚実を問わず幅広く用いる処方で使われる表現である。 総合：一般用漢方処方では、実は「体力が充実して」、虚は「体力虚弱で」などの表現で適応となる体質を示す。

0109 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
漢方処方製剤について、適切な説明はどれか。 ア 天然由来なので重篤な副作用は起こらない。 イ 証に合わない処方でも副作用リスクは変わらない。 ウ 漢方薬でも間質性肺炎や肝機能障害などの重篤な副作用が起こることがある。 エ 症状が悪化しても必ず好転反応なので継続する。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。漢方薬でも重篤な副作用が報告されている。 イ：誤り。証に合わない使用で効果が得られず、副作用が起こりやすくなることもある。 ウ：正しい。漢方薬を「作用が穏やかで副作用が少ない」と一律に考えるのは誤りで、重篤な副作用や証不適合による悪化にも注意する。 エ：誤り。重篤副作用の初期症状を見逃す危険があるため、安易に好転反応と判断しない。 総合：漢方薬を「作用が穏やかで副作用が少ない」と一律に考えるのは誤りで、重篤な副作用や証不適合による悪化にも注意する。
0110 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
一般用漢方処方製剤について、用法用量に年齢下限が明記されていない場合でも使用しないこととされているのはどれか。 ア 乳児はすべて使用禁止であり、満1歳になるまで使用できない。 イ 小児は就学前まで一律に使用禁止である。 ウ 15歳未満は年齢にかかわらず一律に使用禁止である。 エ 生後3か月未満の乳児	答え・解説 正答：エ ア：誤り。漢方処方製剤全般について、乳児すべてを満1歳まで一律に禁止する規定ではない。 イ：誤り。就学前まで一律に使用禁止とするものではない。 ウ：誤り。15歳未満を年齢にかかわらず一律に使用禁止とするものではない。 エ：正しい。適用年齢の下限が設けられていない場合でも、生後3か月未満の乳児には使用しない。 総合：漢方処方製剤は、適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3か月未満の乳児には使用しない。

0111 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
漢方処方製剤を比較的長期間使用する場合の考え方として、適切なのはどれか。 ア 1か月程度継続することがあるが、一定期間後も症状経過や副作用を確認し、必要に応じ専門家へ相談する。 イ 漢方薬は副作用がないため、症状に関係なく無期限に使用する。 ウ 1回服用して効果がなければ必ず過量投与する。 エ 症状が進行しても処方が合っている証拠なので継続する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。漢方処方製剤は体質改善を主眼として比較的長く使うこともあるが、漫然と使用せず経過と副作用を確認する。 イ：誤り。長期使用時も効果・副作用の確認が必要である。 ウ：誤り。自己判断で増量するのは不適切である。 エ：誤り。まれに症状が進行する処方もあり、経過確認が必要である。 総合：漢方処方製剤は体質改善を主眼として比較的長く使うこともあるが、漫然と使用せず経過と副作用を確認する。
0112 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
黄連解毒湯について、適切なのはどれか。 ア 体力虚弱で冷えが強い人だけに用いる。 イ 体力中等度以上で、のぼせがみ・顔色が赤く、いらいらする傾向のある人の不眠症や神経症、胃炎、口内炎などに用いられる。 ウ 主に便秘だけに用い、皮膚症状には用いない。 エ 重篤な副作用は知られていない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。黄連解毒湯は体力中等度以上で熱症状を伴う人に適する。 イ：正しい。黄連解毒湯は体力中等度以上でのぼせ・赤ら顔・いらいら等がある人に用いられ、肝機能障害、間質性肺炎等にも注意する。 ウ：誤り。湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ等にも用いられる。 エ：誤り。肝機能障害、間質性肺炎、腸間膜静脈硬化症が知られている。 総合：黄連解毒湯は体力中等度以上でのぼせ・赤ら顔・いらいら等がある人に用いられ、肝機能障害、間質性肺炎等にも注意する。

0113 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
防已黄耆湯に適する状態として、最も適切なのはどれか。 ア 体力充実で腹部皮下脂肪が多く便秘がちな人 イ 赤ら顔でのぼせがあり、にきびが目立つ人 ウ 体力中等度以下で疲れやすく汗をかきやすく、むくみや水ぶとり傾向がある。 エ 脇腹からみぞおちが苦しく便秘傾向の強い人	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。防風通聖散の適応像に近い。 イ：誤り。清上防風湯の適応像に近い。 ウ：正しい。防已黄耆湯は、体力中等度以下で疲れやすく発汗傾向があり、むくみ、多汗症、水ぶとり型肥満などに用いられる。 エ：誤り。大柴胡湯の適応像に近い。 総合：防已黄耆湯は、体力中等度以下で疲れやすく発汗傾向があり、むくみ、多汗症、水ぶとり型肥満などに用いられる。
0114 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
体力が充実し、腹部に皮下脂肪が多く便秘がちな人に用いる防風通聖散の説明として、正しいものはどれか。 ア 胃腸虚弱で下痢しやすい人ほど適する。 イ 小児にも肥満症目的で広く用いる。 ウ ダイオウを含まないため瀉下薬との重複は問題にならない。 エ 体力が充実し腹部に皮下脂肪が多く便秘がちな人の肥満症などに用いられ、他の瀉下薬との併用を避ける。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。激しい腹痛を伴う下痢等が現れやすく、不向きである。 イ：誤り。小児への適用はない。 ウ：誤り。構成生薬にダイオウを含み、瀉下薬との併用を避ける。 エ：正しい。防風通聖散は体力充実・便秘傾向の肥満症等に用いられる。カンゾウ、マオウ、ダイオウを含み、虚弱者や下痢傾向には不向きである。 総合：防風通聖散は体力充実・便秘傾向の肥満症等に用いられる。カンゾウ、マオウ、ダイオウを含み、虚弱者や下痢傾向には不向きである。

0115 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：標準	
大柴胡湯の適応として、最も適切なのはどれか。 ア 体力が充実し、脇腹からみぞおち付近が苦しく、便秘傾向がある人の胃炎、常習便秘、肥満症など イ 体力虚弱で胃腸が弱く下痢しやすい人 ウ 乾燥肌だけがある体力虚弱者 エ 夜盲症だけがある人	答え・解説 正答：ア ア：正しい。大柴胡湯は体力充実で胸脇苦満様の症状と便秘傾向がある人に用いられる。ダイオウを含み、下痢しやすい人には不向きである。 イ：誤り。大柴胡湯では副作用が現れやすく不向きである。 ウ：誤り。大柴胡湯の典型的適応像ではない。 エ：誤り。ビタミンA等の論点であり、大柴胡湯の適応ではない。 総合：大柴胡湯は体力充実で胸脇苦満様の症状と便秘傾向がある人に用いられる。ダイオウを含み、下痢しやすい人には不向きである。
0116 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：応用	
赤ら顔・のぼせ傾向のある人のにきび等に用いる清上防風湯の説明として、正しいものはどれか。 ア 体力虚弱で冷えが強い人の夜間尿に用いる。 イ 体力中等度以上で赤ら顔・のぼせ傾向がある人のにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎などに用いられる。 ウ 主に急性の下痢を止めるために用いる。 エ 胃腸が弱い人でも副作用が出にくい。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。清上防風湯の適応ではない。 イ：正しい。清上防風湯は体力中等度以上で赤ら顔・のぼせ傾向のにきびや顔面の皮膚炎等に用いられ、カンゾウを含む。 ウ：誤り。止瀉薬ではない。 エ：誤り。胃腸の弱い人では食欲不振や胃部不快感が現れやすく不向きである。 総合：清上防風湯は体力中等度以上で赤ら顔・のぼせ傾向のにきびや顔面の皮膚炎等に用いられ、カンゾウを含む。

0117 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：応用	
複数の漢方処方製剤を自己判断で併用している人への説明として、最も適切なのはどれか。 ア 漢方薬同士は相互作用を起こさない。 イ 異なる商品名なら配合生薬は必ず異なる。 ウ カンゾウ、マオウ、ダイオウなど共通生薬が重複し、作用や副作用が強まることもあるため、併用内容を確認する。 エ 生薬を追加するほど処方全体のバランスが必ず良くなる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。共通生薬の重複で作用・副作用が強まることがある。 イ：誤り。商品名が異なっても共通生薬を含むことがある。 ウ：正しい。漢方処方では処方全体で成立しており、複数製剤や生薬製剤の併用で共通生薬が重複すると副作用リスクが高まる。 エ：誤り。自己判断の追加で処方の構成が乱れるおそれがある。 総合：漢方処方では処方全体で成立しており、複数製剤や生薬製剤の併用で共通生薬が重複すると副作用リスクが高まる。
0118 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [漢方処方製剤] 難易度：応用	
医療機関でインターフェロン製剤による治療を受けている人が漢方薬を希望している。確認すべき代表的な相互作用はどれか。 ア 防己黄耆湯との併用で必ず低血糖になること イ 黄連解毒湯との併用で必ず視力が低下すること ウ 清上防風湯との併用で必ず鉄欠乏性貧血になること エ 小柴胡湯との併用による重篤な間質性肺炎のリスク	答え・解説 正答：エ ア：誤り。そのような代表的相互作用ではない。 イ：誤り。代表的な相互作用ではない。 ウ：誤り。そのような相互作用ではない。 エ：正しい。小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用では間質性肺炎の危険が知られており、治療中の人は自己判断で漢方薬を追加せず医師・薬剤師に相談する。 総合：小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用では間質性肺炎の危険が知られており、治療中の人は自己判断で漢方薬を追加せず医師・薬剤師に相談する。

0119 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：基礎	
その他の生薬製剤について、適切なのはどれか。 ア 個々の生薬成分の薬理作用を主に考えて相加的に配合したものが多く、漢方処方のような証に基づく定まった処方とは限らない。 イ すべて漢方の証に基づく定型処方である。 ウ 必ず単一生薬だけで作られる。 エ 伝統的な名称が付いていれば必ず漢方薬である。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。生薬製剤は生薬成分の薬理作用を重視して組み合わせたものがあり、漢方処方のように証に基づく定まった処方とは限らない。 イ：誤り。その他の生薬製剤は漢方処方製剤と考え方が異なる。 ウ：誤り。複数の生薬成分が配合されることもある。 エ：誤り。「○○丸」等の名称でも漢方処方とは限らない。 総合：生薬製剤は生薬成分の薬理作用を重視して組み合わせたものがあり、漢方処方のように証に基づく定まった処方とは限らない。
0120 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：基礎	
全形生薬や切断生薬、粉末生薬の取扱いについて、適切なのはどれか。 ア 湿気を与えるほど品質が安定する。 イ カビや虫害、異物混入を避け、清潔かつ衛生的に扱い、湿気を避けて保存する。 ウ 虫害があっても有効成分は変わらないため使用できる。 エ 異物が混入しても煎じれば問題ない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。湿気はカビや品質劣化の原因となる。 イ：正しい。生薬は天然物由来で、カビ・虫害・異物混入の影響を受けるため、清潔に扱い湿気や虫害を避けて保存する。 ウ：誤り。汚損・虫害品は不適切である。 エ：誤り。衛生的な取扱いが必要である。 総合：生薬は天然物由来で、カビ・虫害・異物混入の影響を受けるため、清潔に扱い湿気や虫害を避けて保存する。

0121 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：標準	
生薬の基原や薬用部位の確認が重要な理由として、最も適切なのはどれか。 ア どの植物部位でも成分は完全に同じだから イ 生薬名は世界共通で必ず同じ植物を意味するから ウ 類似植物や非薬用部位との取り違えで、有効性低下だけでなく有害成分による健康被害が起こり得るため エ 個人輸入品ほど日本薬局方への適合が保証されるから	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。部位によって有害成分を含む場合がある。 イ：誤り。国により名称や基原が異なる場合がある。 ウ：正しい。サイシンやモクツウのように、薬用部位や類似基原の取り違えでアリストロキア酸等による健康被害が生じる例がある。 エ：誤り。個人輸入品では健康被害事例が知られている。 総合：サイシンやモクツウのように、薬用部位や類似基原の取り違えでアリストロキア酸等による健康被害が生じる例がある。
0122 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：標準	
減毒加工したトリカブトの塊根を基原とする生薬「ブシ」の特徴として、正しいものはどれか。 ア 生のまま使用するほど安全性が高い。 イ プロスタグランジン産生を強く抑えるNSAIDsである。 ウ 主に尿中hCGを検出する成分である。 エ トリカブトの塊根を減毒加工した生薬で、血液循環改善、利尿、鎮痛などの作用を示す。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。生のトリカブトは毒性が高く、減毒加工して用いる。 イ：誤り。ブシの鎮痛作用はアスピリン等と異なり、プロスタグランジン抑制によらない。 ウ：誤り。検査薬の成分ではない。 エ：正しい。ブシはハナトリカブト等の塊根を減毒加工した生薬で、心筋収縮力増強による循環改善、利尿、鎮痛等の作用を持つ。 総合：ブシはハナトリカブト等の塊根を減毒加工した生薬で、心筋収縮力増強による循環改善、利尿、鎮痛等の作用を持つ。

0123 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：標準	
代表的な生薬の説明として、適切なのはどれか。 ア カッコンはクズの根を基原とし、解熱・鎮痙などの作用を期待して用いられる。 イ サイコはサンザシの果実を基原とする。 ウ ブクリョウはレンギョウの果実を基原とする。 エ サンザシはトリカブトの塊根を基原とする。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。カッコンはクズの根で解熱・鎮痙、サイコはミシマサイコの根で抗炎症・鎮痛、ブクリョウはマツホドの菌核で利尿・健胃・鎮静などを期待して用いる。 イ：誤り。サイコはミシマサイコの根を基原とする。 ウ：誤り。ブクリョウはマツホドの菌核を基原とする。 エ：誤り。サンザシはサンザシ等の偽果を基原とする。 総合：カッコンはクズの根で解熱・鎮痙、サイコはミシマサイコの根で抗炎症・鎮痛、ブクリョウはマツホドの菌核で利尿・健胃・鎮静などを期待して用いる。
0124 [漢方処方製剤・生薬製剤] > [その他の生薬製剤] 難易度：応用	
生薬製剤を複数使用し、さらに同じ生薬を含むハーブ食品も摂取している人への説明として、最も適切なのはどれか。 ア 食品として売られている生薬なら医薬品との相互作用は起こらない。 イ 同じ生薬や同種作用が重複して作用・副作用が強まることもあるため、医薬品と食品を含めて摂取内容を確認する。 ウ 生薬製剤はすべて作用が弱いため、複数併用しても問題ない。 エ 1か月使用して改善しなくても受診せず継続する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。同じ生薬成分の摂取で作用が増強する可能性がある。 イ：正しい。生薬製剤でも成分重複や食品との相互作用があり得る。副作用が少ないとの思い込みを避け、改善しない場合は受診を促す。 ウ：誤り。センソ等のように少量で強い作用を示す生薬もある。 エ：誤り。改善しない場合は一般用医薬品で対処できない疾患の可能性があり受診を考える。 総合：生薬製剤でも成分重複や食品との相互作用があり得る。副作用が少ないとの思い込みを避け、改善しない場合は受診を促す。

0125 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：基礎	
殺菌・消毒と滅菌の説明として、適切なのはどれか。 ア 消毒と滅菌は常に同じ意味である。 イ 殺菌は微生物を増殖させる処置である。 ウ 殺菌・消毒は生存する微生物の数を減らす処置で、滅菌は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することをいう。 エ 滅菌は細菌だけを対象としウイルス等は含まない。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。滅菌はすべての微生物を対象とする点で区別される。 イ：誤り。殺菌は微生物を死滅させる処置である。 ウ：正しい。消毒の効果は成分、濃度、温度、時間、汚染度、微生物の種類などで異なる。対象に合った消毒法を選ぶ必要がある。 エ：誤り。滅菌は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去する概念である。 総合：消毒の効果は成分、濃度、温度、時間、汚染度、微生物の種類などで異なる。対象に合った消毒法を選ぶ必要がある。
0126 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：基礎	
消毒薬の殺菌消毒効果について、適切なのはどれか。 ア 濃度だけで決まり、微生物の種類は関係しない。 イ どの消毒薬も全ての微生物に有効である。 ウ 有機物による汚染は消毒効果に影響しない。 エ 成分の種類や濃度、温度、作用時間、汚染度、微生物の種類や状態などによって異なる。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。微生物によって感受性が異なる。 イ：誤り。消毒薬によっては効果が乏しい、又はない微生物もある。 ウ：誤り。有機物の存在で効果が低下する消毒薬がある。 エ：正しい。消毒薬は万能ではなく、対象微生物や汚染状況に応じて適切な成分・濃度・作用時間を選択する。 総合：消毒薬は万能ではなく、対象微生物や汚染状況に応じて適切な成分・濃度・作用時間を選択する。

0127 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：標準	
クレゾール石ケン液について、適切なのはどれか。 ア 結核菌を含む一般細菌や真菌に比較的広い作用を示すが、大部分のウイルスには効果がない。 イ ウイルス全般に最も強い消毒作用を示す。 ウ 原液を皮膚へ直接塗布して使用する。 エ 飲用して腸内を消毒する。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。クレゾール石ケン液は希釈して用い、一般細菌・真菌等には作用するが、多くのウイルスには有効でない。 イ：誤り。大部分のウイルスには殺菌消毒作用がない。 ウ：誤り。刺激性が強いため原液が皮膚に付着しないよう注意する。 エ：誤り。人体内部へ使用する薬ではない。 総合：クレゾール石ケン液は希釈して用い、一般細菌・真菌等には作用するが、多くのウイルスには有効でない。

0128 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：標準	
エタノールやイソプロパノールの消毒作用について、適切なのはどれか。 ア どちらもウイルスには全く作用しない。 イ 微生物のタンパク質を変性させて作用し、イソプロパノールのウイルス不活化効果はエタノールより低い。 ウ 皮膚の脱脂を防ぐため繰り返し使用に最適である。 エ 粘膜や目の周囲への使用が推奨される。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。エタノールは多くのウイルスに作用し、イソプロパノールも作用するが効果は相対的に低い。 イ：正しい。アルコール類はタンパク質変性により細菌・真菌・ウイルス等に作用するが、皮膚脱脂や粘膜刺激、引火性にも注意する。 ウ：誤り。脱脂により肌荒れを起こしやすい。 エ：誤り。粘膜刺激性があり避ける。 総合：アルコール類はタンパク質変性により細菌・真菌・ウイルス等に作用するが、皮膚脱脂や粘膜刺激、引火性にも注意する。

0129 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：標準	
次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系消毒薬について、適切なのはどれか。 ア 人体の手指消毒に通常そのまま使用する。 イ 金属を腐食しないため器具材質を選ばない。 ウ 酸性洗剤と混ぜると有毒な塩素ガスが発生するため、混用を避ける。 エ 色柄物の漂白作用はない。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。皮膚刺激性が強く、通常人体の消毒には用いない。 イ：誤り。金属腐食性がある。 ウ：正しい。塩素系消毒成分は強い酸化力で広い微生物に作用するが、人体には通常用いず、金属腐食・漂白・酸性洗剤との混合による塩素ガス発生に注意する。 エ：誤り。漂白作用があり、色柄物等には不向きである。 総合：塩素系消毒成分は強い酸化力で広い微生物に作用するが、人体には通常用いず、金属腐食・漂白・酸性洗剤との混合による塩素ガス発生に注意する。
0130 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：標準	
吐瀉物が床に付着した場所を次亜塩素酸ナトリウムで消毒する場合の考え方として、適切なのはどれか。 ア 吐瀉物を残したまま濃度に関係なく少量だけ散布する。 イ 酸性洗剤と同時に使って作用を高める。 ウ 皮膚に付着した吐瀉物も同じ高濃度液で直接消毒する。 エ 有機物の影響で効果が低下しやすいため、可能な範囲で汚染物を除去・洗浄した後に使用する。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。有機物が多いと消毒効果が低下しやすい。 イ：誤り。有毒な塩素ガスが発生する危険がある。 ウ：誤り。人体への使用には適さない。 エ：正しい。次亜塩素酸ナトリウムは吐瀉物・血液汚染の消毒に適するが、有機物の影響を受けるため洗浄後に使用する方が効果的である。 総合：次亜塩素酸ナトリウムは吐瀉物・血液汚染の消毒に適するが、有機物の影響を受けるため洗浄後に使用する方が効果的である。

0131 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：応用	
家庭用消毒薬が誤って目に入った場合の初期対応として、最も適切なのはどれか。 ア 弱い流水で十分に、少なくとも15分以上洗眼し、必要に応じ速やかに受診する。 イ 酸性薬剤ならアルカリ性液で中和してから洗う。 ウ 強い水流を眼球へ直接当てる。 エ 洗眼せず自然に涙で流れるのを待つ。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。消毒薬が目に入った場合は直ちに弱い流水で15分以上洗眼する。酸・アルカリを互いに中和する処置は行わない。 イ：誤り。中和反応で熱が生じ、障害を悪化させるおそれがある。 ウ：誤り。強い水流は眼を傷める可能性がある。 エ：誤り。早期に十分な水洗を行うことが重要である。 総合：消毒薬が目に入った場合は直ちに弱い流水で15分以上洗眼する。酸・アルカリを互いに中和する処置は行わない。
0132 [公衆衛生用薬] > [消毒薬] 難易度：応用	
濃厚な消毒薬を誤って飲み込んだ場合の対応として、適切なのはどれか。 ア 必ず直ちに指を入れて吐かせる。 イ 自己判断で無理に吐かせず、可能なら水や牛乳等を早めに飲ませた上で速やかに医療機関へつなく。 ウ 何も飲ませず半日様子を見る。 エ 別の薬剤を飲ませて化学的に中和する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。原末・濃厚液では吐かせることで食道等を再度傷めるおそれがある。 イ：正しい。消毒薬の誤飲では、濃厚液等を安易に吐かせず、早期に水や牛乳等を摂らせるなどの応急処置後、速やかに受診する。 ウ：誤り。粘膜保護・吸収遅延のため早期対応と受診が必要である。 エ：誤り。中和反応による発熱等で悪化する可能性がある。 総合：消毒薬の誤飲では、濃厚液等を安易に吐かせず、早期に水や牛乳等を摂らせるなどの応急処置後、速やかに受診する。

0133 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：基礎	
有機リン系殺虫成分の殺虫作用として、適切なのはどれか。 ア ヒスタミン受容体を遮断する。 イ 昆虫の脱皮だけを阻害する。 ウ アセチルコリンエステラーゼに不可逆的に結合して、その働きを阻害する。 エ 昆虫の角質を軟化させる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。抗ヒスタミン薬の作用である。 イ：誤り。昆虫成長阻害成分の作用である。 ウ：正しい。有機リン系殺虫成分はアセチルコリンエステラーゼを不可逆的に阻害し、神経系を異常に興奮させて殺虫作用を示す。 エ：誤り。そのような作用機序ではない。 総合：有機リン系殺虫成分はアセチルコリンエステラーゼを不可逆的に阻害し、神経系を異常に興奮させて殺虫作用を示す。

0134 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：基礎	
有機リン系殺虫成分に高濃度又は多量に曝露したときにみられ得る症状として、適切なのはどれか。 ア 散瞳、口渇だけ イ 夜盲症、骨軟化症 ウ 高血糖だけ エ 縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺	答え・解説 正答：エ ア：誤り。有機リン中毒ではコリン作動性症状が問題となる。 イ：誤り。ビタミン欠乏等に関連する症状である。 ウ：誤り。代表的中毒症状ではない。 エ：正しい。有機リン系殺虫剤の中毒ではアセチルコリン作用が過剰となり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺等が現れることがあるため直ちに受診する。 総合：有機リン系殺虫剤の中毒ではアセチルコリン作用が過剰となり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺等が現れることがあるため直ちに受診する。

0135 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：標準	
ピレスロイド系殺虫成分について、適切なのはどれか。 ア ベルメトリンやフェノトリン等があり、神経細胞に作用して神経伝達を阻害する。 イ アセチルコリンエステラーゼへ不可逆的に結合するのが主作用である。 ウ 残効性が非常に高く自然分解しにくいので家庭用には使われない。 エ フェノトリンは人体への適用が一切認められていない。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。ピレスロイド系は神経細胞の神経伝達を阻害して殺虫し、比較的分解が速いため家庭用殺虫剤に広く用いられる。 イ：誤り。これは有機リン系の作用である。 ウ：誤り。比較的速やかに自然分解し、家庭用殺虫剤に広く使われる。 エ：誤り。シラミ駆除目的の製品では人体に直接適用される。 総合：ピレスロイド系は神経細胞の神経伝達を阻害して殺虫し、比較的分解が速いため家庭用殺虫剤に広く用いられる。
0136 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：標準	
メトプレンやピリプロキシフェン等の昆虫成長阻害成分について、適切なのはどれか。 ア 哺乳類のアセチルコリン受容体を刺激して殺虫する。 イ 直接殺虫するのではなく、昆虫の脱皮や変態を妨げて成虫になるのを阻止する。 ウ 成虫だけに即効的な麻痺を起こすことが主作用である。 エ 真菌の細胞膜合成を阻害する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。昆虫の成長過程を標的とする。 イ：正しい。昆虫成長阻害成分は幼若ホルモン様作用や外殻形成阻害により、脱皮・変態を妨げる。 ウ：誤り。幼虫の変態や脱皮の阻害が主作用である。 エ：誤り。抗真菌薬の作用である。 総合：昆虫成長阻害成分は幼若ホルモン様作用や外殻形成阻害により、脱皮・変態を妨げる。

0137 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：標準	
忌避成分の使用について、適切なのはどれか。 ア ディートは新生児にも回数制限なく使用できる。 イ イカリジンは12歳未満には使用できない。 ウ ディートは生後6か月未満の乳児への使用を避ける一方、イカリジンには年齢による使用制限がない。 エ ディートは顔面へ直接噴霧するのが推奨される。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。生後6か月未満への使用は避ける。 イ：誤り。年齢による使用制限はない。 ウ：正しい。ディートには乳幼児で使用制限があり、6か月以上12歳未満でも年齢に応じ使用回数を守る。イカリジンは年齢制限がない。 エ：誤り。顔面へ直接噴霧せず、必要なら手に取って塗布する。 総合：ディートには乳幼児で使用制限があり、6か月以上12歳未満でも年齢に応じ使用回数を守る。イカリジンは年齢制限がない。
0138 [公衆衛生用薬] > [殺虫剤・忌避剤] 難易度：応用	
家庭用殺虫剤の使用方法として、最も適切なのはどれか。 ア 燻蒸処理中は室内に留まり吸入して効果を確認する。 イ 処理後は換気せず、殺虫成分を長く室内に残す。 ウ 毒餌剤は乳幼児が触れやすい床中央に置く。 エ 燻蒸剤では処理中に部屋を締め切って退出し、処理後に十分換気し、毒餌剤は乳幼児が口に入れない場所へ置く。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。吸入曝露を避けるため退出する。 イ：誤り。処理後は十分な換気が必要である。 ウ：誤り。誤食防止のため手の届かない場所に置く。 エ：正しい。殺虫剤は剤形ごとに曝露・誤食事故を防ぐ必要がある。燻蒸後は換気と死骸除去、毒餌剤では乳幼児等の誤食防止が重要である。 総合：殺虫剤は剤形ごとに曝露・誤食事故を防ぐ必要がある。燻蒸後は換気と死骸除去、毒餌剤では乳幼児等の誤食防止が重要である。

0139 [一般用検査薬] > [一般用検査薬の基本] 難易度：基礎	
一般用検査薬の目的として、最も適切なのはどれか。 ア 一般の生活者が自ら使用して健康状態を把握し、必要な受診につなげる。 イ 検査結果だけで疾病を確定診断する。 ウ 医療機関でしか使用できない。 エ 重大疾患の確定診断を家庭で完結させる。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。一般用検査薬はセルフチェックを通じて健康状態を把握し、異常が疑われる場合に受診へつなげる補助的な医薬品である。 イ：誤り。一般用検査薬は専門的診断に置き換わるものではない。 ウ：誤り。薬局等で一般の生活者向けに販売されるものがある。 エ：誤り。悪性腫瘍や心筋梗塞、遺伝性疾患等の診断に関係するものは一般用検査薬の対象外である。 総合：一般用検査薬はセルフチェックを通じて健康状態を把握し、異常が疑われる場合に受診へつなげる補助的な医薬品である。
0140 [一般用検査薬] > [一般用検査薬の基本] 難易度：標準	
一般用検査薬で用いられる検体について、適切なのはどれか。 ア 静脈血の採血が必須である。 イ 尿、便、鼻汁、唾液、涙液など、採取時に採血や穿刺を必要としないものが基本である。 ウ 骨髓液を自宅で採取して使用する。 エ 組織を切除して検査する。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。一般用検査薬では侵襲のない検体が基本である。 イ：正しい。一般用検査薬は一般生活者が安全に扱えることが前提で、尿、便、鼻汁、唾液、涙液等の非侵襲的に採取できる検体を用いる。 ウ：誤り。侵襲性が高く一般用検査薬の検体には適さない。 エ：誤り。一般の生活者が安全に採取できる非侵襲的検体が対象である。 総合：一般用検査薬は一般生活者が安全に扱えることが前提で、尿、便、鼻汁、唾液、涙液等の非侵襲的に採取できる検体を用いる。

0141 [一般用検査薬] > [一般用検査薬の基本] 難易度：標準	
一般用検査薬の偽陰性と偽陽性について、適切なのはどれか。 ア 偽陰性は対象物質がないのに陽性になることをいう。 イ 検出感度を上げれば偽陽性も必ずゼロになる。 ウ 対象物質が存在しても検出感度以下などで陰性になるのが偽陰性、対象物質がないのに非特異反応で陽性になるのが偽陽性である。 エ どの検査薬でも偽陰性・偽陽性は完全に排除できる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。それは偽陽性に相当する。 イ：誤り。感度を鋭敏にすると非特異反応が増え、偽陽性が生じやすくなる場合がある。 ウ：正しい。検査薬には検出限界と非特異反応があり、偽陰性・偽陽性を完全に避けることはできない。結果は症状や受診判断と合わせて扱う。 エ：誤り。生体検体には妨害物質等があり、完全排除は困難である。 総合：検査薬には検出限界と非特異反応があり、偽陰性・偽陽性を完全に避けることはできない。結果は症状や受診判断と合わせて扱う。
0142 [一般用検査薬] > [一般用検査薬の基本] 難易度：応用	
一般用検査薬を販売するときの説明として、最も適切なのはどれか。 ア 陽性なら疾患名まで確定できると説明する。 イ 陰性なら症状があっても受診不要と説明する。 ウ 保管条件や採取時期は検査結果に影響しないと説明する。 エ 使い方、保管、検体採取時期、妨害物質、判定方法を説明し、検査は専門的診断に置き換わらないことと必要時の受診を伝える。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。一般用検査薬だけで確定診断はできない。 イ：誤り。偽陰性もあり、症状があれば受診が必要な場合がある。 ウ：誤り。温度や検体採取条件等で性能が変わることがある。 エ：正しい。販売時には検査の限界と正しい使い方を説明し、検査結果を自己診断の終点ではなく適切な受診への判断材料として扱うよう支援する。 総合：販売時には検査の限界と正しい使い方を説明し、検査結果を自己診断の終点ではなく適切な受診への判断材料として扱うよう支援する。

0143 [一般用検査薬] > [尿糖・尿タンパク検査薬] 難易度：基礎	
尿糖または尿タンパクが検出される背景要因について、正しい説明はどれか。 ア 尿糖は高血糖以外に腎性糖尿でも生じることがあり、尿タンパクは腎炎や尿路感染症などでもみられる。 イ 尿糖陽性は必ず糖尿病を意味する。 ウ 尿タンパク陽性は必ず食事だけが原因である。 エ 正常では糖やタンパク質は尿細管で再吸収されない。	答え・解説 正答：ア ア：正しい。尿糖・尿タンパクの異常は複数の原因で生じ、検査結果だけで疾患名を確定することはできない。 イ：誤り。腎性糖尿など高血糖を伴わない場合もある。 ウ：誤り。腎疾患や尿路疾患などでも生じる。 エ：誤り。正常では大部分が再吸収される。 総合：尿糖・尿タンパクの異常は複数の原因で生じ、検査結果だけで疾患名を確定することはできない。
0144 [一般用検査薬] > [尿糖・尿タンパク検査薬] 難易度：標準	
尿糖検査と尿タンパク検査で推奨される採尿時期の違いについて、正しいものはどれか。 ア 尿糖も尿タンパクも必ず運動直後の尿を用いる。 イ 尿糖は食後1～2時間など製品の指示に従い、尿タンパクは原則として早朝尿を用いて激しい運動直後を避ける。 ウ 尿タンパク検査は食後の尿だけを用いる。 エ 採尿時刻は結果に全く影響しない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。運動は尿タンパク結果に影響することがある。 イ：正しい。尿検査では目的に合った採尿時期を守る。尿糖は食事の影響、尿タンパクは運動等の影響を受けるため、添付文書の条件に従う。 ウ：誤り。原則として早朝尿が適する。 エ：誤り。尿中成分は採取時期の影響を受ける。 総合：尿検査では目的に合った採尿時期を守る。尿糖は食事の影響、尿タンパクは運動等の影響を受けるため、添付文書の条件に従う。

0145 [一般用検査薬] > [尿糖・尿タンパク検査薬] 難易度：標準	
尿糖・尿タンパク検査を正確に行う方法として、適切なのはどれか。 ア 糖分が残った容器を再利用すると感度が上がる。 イ 出始めの尿だけを採るほど混入物が少ない。 ウ 清浄な容器に中間尿を採り、採尿後はなるべく速やかに検査し、試験部分を直接手で触れない。 エ 試験紙を長時間尿に浸すほど正確になる。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。容器の汚れて偽った結果が出るおそれがある。 イ：誤り。尿道・外陰部の細菌や分泌物混入を避けるため中間尿が望ましい。 ウ：正しい。尿検査では清浄容器、中間尿、速やかな検査、試験部分に触れないこと、規定時間だけ浸すことなど基本操作を守る。 エ：誤り。検出成分が溶け出して正確な結果が得られなくなることがある。 総合：尿検査では清浄容器、中間尿、速やかな検査、試験部分に触れないこと、規定時間だけ浸すことなど基本操作を守る。
0146 [一般用検査薬] > [尿糖・尿タンパク検査薬] 難易度：応用	
尿糖検査が陽性となった人への対応として、最も適切なのはどれか。 ア 陽性なら糖尿病と確定して市販薬だけで治療を始める。 イ 陽性でも症状がなければ受診不要と説明する。 ウ 陰性ならどんな症状があっても病気は否定できる。 エ 検査だけで糖尿病と確定せず、早期に医療機関で診断を受けるよう勧める。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。尿糖陽性だけで疾患を確定できない。 イ：誤り。無症状でも疾患が潜んでいる可能性がある。 ウ：誤り。偽陰性もあり、症状があれば再検査や受診が必要である。 エ：正しい。尿糖・尿タンパク検査はスクリーニングであり、陽性時には確定診断と適切な治療につなげるため医師の診断を受ける。 総合：尿糖・尿タンパク検査はスクリーニングであり、陽性時には確定診断と適切な治療につなげるため医師の診断を受ける。

0147 [一般用検査薬] > [妊娠検査薬] 難易度：基礎	
一般的な妊娠検査薬が尿中で検出する物質はどれか。 ア ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG） イ インスリン ウ ヒスタミン エ コルチゾール	答え・解説 正答：ア ア：正しい。妊娠成立後、絨毛細胞からhCGが分泌され尿中にも現れるため、一般的な妊娠検査薬は尿中hCGを検出する。 イ：誤り。血糖調節ホルモンであり妊娠検査の主な検出対象ではない。 ウ：誤り。アレルギー反応に関与する物質である。 エ：誤り。副腎皮質ホルモンであり一般的妊娠検査の対象ではない。 総合：妊娠成立後、絨毛細胞からhCGが分泌され尿中にも現れるため、一般的な妊娠検査薬は尿中hCGを検出する。
0148 [一般用検査薬] > [妊娠検査薬] 難易度：標準	
一般的な妊娠検査薬の使用時期として、適切なのはどれか。 ア 月経予定日の2週間前なら必ず正確に判定できる。 イ 月経予定日が過ぎて概ね1週間後以降に、製品の使用方法に従って検査する。 ウ 性交直後なら妊娠成立前でも陽性になる。 エ 検査時期は結果の正確性に影響しない。	答え・解説 正答：イ ア：誤り。早すぎる検査では尿中hCGが検出感度に達せず偽陰性になることがある。 イ：正しい。一般的な妊娠検査薬は月経予定日の概ね1週間後以降が推奨され、早すぎる検査ではhCG濃度が低く偽陰性になり得る。 ウ：誤り。hCGは妊娠成立後に分泌される。 エ：誤り。早期検査では偽陰性の可能性が高まる。 総合：一般的な妊娠検査薬は月経予定日の概ね1週間後以降が推奨され、早すぎる検査ではhCG濃度が低く偽陰性になり得る。

0149 [一般用検査薬] > [妊娠検査薬] 難易度：標準	
妊娠検査薬の結果について、適切なのはどれか。 ア 陽性なら必ず正常妊娠が成立している。 イ 陰性なら月経遅延の原因は必ず妊娠以外である。 ウ 高濃度のタンパク尿・糖尿や一部のホルモン関連条件などで、妊娠していなくても陽性となることがある。 エ 採取した尿を長時間放置しても結果に影響しない。	答え・解説 正答：ウ ア：誤り。腫瘍などでhCGが産生される場合や偽陽性があり、正常妊娠かどうかも判定できない。 イ：誤り。検査時期が早いなどで偽陰性のことがある。 ウ：正しい。妊娠検査では検査時期、尿の状態、温度、混在物質、ホルモン分泌の変動などが結果に影響し、偽陽性・偽陰性が起こり得る。 エ：誤り。尿成分の分解等で結果に影響することがある。 総合：妊娠検査では検査時期、尿の状態、温度、混在物質、ホルモン分泌の変動などが結果に影響し、偽陽性・偽陰性が起こり得る。
0150 [一般用検査薬] > [妊娠検査薬] 難易度：標準	
妊娠検査薬で陽性となった人への説明として、最も適切なのはどれか。 ア 陽性なら子宮内の正常妊娠が確定したと説明する。 イ 陽性なら医療機関の確認は不要である。 ウ 陰性なら月経が3か月以上なくても受診不要である。 エ 検査薬だけでは妊娠の確定や正常妊娠かどうかは判断できないため、早期に産婦人科を受診するよう勧める。	答え・解説 正答：エ ア：誤り。子宮外妊娠など正常妊娠かどうかは判定できない。 イ：誤り。問診や超音波検査等による確定診断が必要である。 ウ：誤り。偽陰性や続発性無月経等の可能性があり受診が必要である。 エ：正しい。妊娠検査薬は尿中hCGを調べる補助検査であり、妊娠の確定や正常妊娠の判定には専門医の診察・超音波検査等が必要である。 総合：妊娠検査薬は尿中hCGを調べる補助検査であり、妊娠の確定や正常妊娠の判定には専門医の診察・超音波検査等が必要である。